

## No.12 >>> Contents

### ●提携支援センターから

<蚕糸・絹業提携緊急対策事業の活動>

- I 提携システム確立グループとして西陣純国産絹振興会を承認 . . . . . ①
- II 平成 21 年度蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の取組経過の概要 . . . . . ③
- III 平成 22 年度第 1 次純国産絹マーク使用許諾状況 (天蚕糸製品を初めて認定)  
 . . . . . 社団法人 日本絹業協会 . . . . . ⑨
- 学生たちとのシルク商品開発 . . . 共愛学園前橋国際大学 教授 兼本 雅章  
 . . . . . 門倉メリヤス株式会社 代表取締役社長 門倉 重行 . . . . . ⑪
- 名古屋市で初の開催 ー活況だった純国産絹製品展ー  
 . . . . . 社団法人 日本絹業協会 . . . . . ⑮
- 「日本絹の里」からの情報発信に注目してください  
 . . . . . 財団法人 群馬県 蚕糸振興協会 上野 邦彦 . . . . . ⑱
- 提携支援センター活動日誌 No.12 . . . . . ⑲

### ●今月の話題

- 東京青山に、きもの KYOTO アンテナショップ「白イ鳥」開設  
 . . . . . 京都市産業観光局商工部伝統産業課 . . . . . ⑲

### ●国内情報

- 世界最高の蚕糸技術をいかし自立できる蚕糸業構築のために  
 . . . . . 群馬県農政部蚕糸園芸課 絹主監 狩野 寿作 . . . . . ⑲

### ●海外情報

- 中国の繭・生糸生産、増産体制へ . . . . . ⑳

### ●トピックス

- 国内産地情報、海外情報 (中国) . . . . . ㉑

### ●横浜開港とシルク貿易

- 開港当初ごろの生糸輸出抑制策と生糸取引  
 . . . . . シルク博物館 元部長 小泉 勝夫 . . . . . ㉒

### ●イベント情報 . . . . . ㉓

### ●登録コーディネーター一覧 . . . . . ㉔

### ●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧 . . . . . ㉕

### ●蚕糸関係博物館一覧 . . . . . ㉖

### ●蚕糸関係団体ホームページ一覧 . . . . . ㉗

### ●統計資料 . . . . . ㉘

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)



## I 提携システム確立グループとして西陣純国産絹振興会を承認

平成 22 年 3 月 30 日、第 4 回事業推進委員会（委員長：林 良博 東京大学大学院教授）が東京都千代田区有楽町蚕糸会館で開催されました。

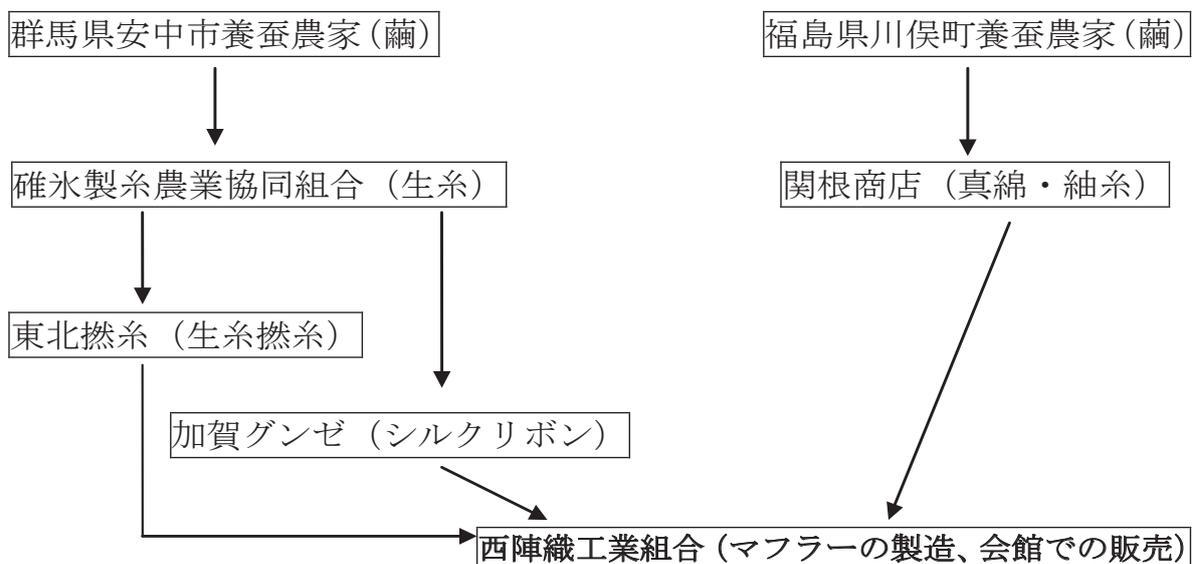
審議の結果、平成 22 年度第一次分として、下記のとおり、西陣純国産絹振興会（代表：西陣織工業組合）が承認されました。

これを加えてこれまでに、10 グループが承認されたこととなります。

### 記

年度	提携グループ名	構成者（団体等）	対象繭生産地 （平成 22 年産対象繭数量）	特徴等 （産地、蚕品種 etc）	備考
H22 承認	西陣純国産絹振興会 （代表：西陣織工業組合）	養蚕農家（4 戸）、 碓氷製糸、関根商店、 東北撚糸、加賀グンゼ、 西陣織工業組合	群馬（1,650 kg） 春 550 kg・初秋 550 kg・ 晩秋 550 kg 福島（495 kg） 春 165 kg・初秋 165 kg・ 晩秋 165 kg	蚕品種 ：春嶺×鐘月、錦 秋×鐘和	（代表者連絡先） 075-432-6131

### ◎西陣織純国産絹振興会の提携システム全体の体系図



(参考)

既承認提携システム確立グループ一覧

年度	提携グループ名	構成者(団体等)	対象繭生産地 (平成20年産対象繭数量)	特徴等 (産地、蚕品種 etc)	備考
H19 承認	グループ167	養蚕農家(4戸)、宮坂製糸、織道染塩野屋、両双、ウェイズ	京都(250kg) 春80kg・初秋70kg・ 晩秋100kg	蚕品種:緑繭1号 副産物(蚕沙、幼虫、蛹等) の有効利用	075-461-1995
H19 承認	白繭細1号プロジェクト 開発チーム	高原社、養蚕農家(11戸)、 碓氷製糸、宮坂製糸、 芋田機業場、五十嵐商事、 龍工房、矢代仁、木村和 裁、三越、マルシバ	長野(2,150kg) 春850kg・晩秋1,300kg	蚕品種:白繭細1号	03-3662-2431
H19 承認	“絹を未来に” プラチナボーイ研究会	養蚕農家(8戸)、碓氷製 糸、芋田機業場、五十嵐 商事、銀座もとじ、 マルシバ	千葉(2,700kg) 春1,200kg・晩秋1,500kg	雄蚕品種: プラチナボーイ 男物の着物及び その関連製品	03-3662-2431
H19 承認	日本蚕糸絹業開発協同組合 国産シルク研究会	養蚕農家(120戸)、碓氷 製糸、丸進機業、カプト、 山直織物、坪金工業、 南久ちりめん、ワタマサ、 江島屋染工場、絹小沢	群馬(24,680kg) 春13,880kg・ 晩秋10,800kg	蚕品種: 群馬オリジナル品種 (ぐんま200、新小石丸、 世紀二一、上州絹星、 ぐんま黄金)	027-361-2311
H20 承認	蚕太開発グループ	養蚕農家(8戸)、碓氷製 糸、マユズミ、門倉メリ ヤス、蜂須メリヤス、 贄田シルク、JA北群馬渋 川・JA前橋	群馬(900kg) 春900kg	蚕品種:蚕太 ニット製品等	027-231-6586
H20 承認	富岡シルクブランド協議会	養蚕農家(21戸)、碓氷 製糸、宮坂製糸、富岡市 長、富岡製糸場、JA甘楽 富岡、個人作家(7人)、 甘楽富岡蚕桑研究会、 富岡シルクタンパク研究 会、繭家	群馬(4,950kg) 春2,425kg・晩秋2,525kg	蚕品種: ぐんま200、錦秋鐘和 21年産以降全量を協議会 で使用	0274-64-0005

年度	提携グループ名	構成者(団体等)	対象繭生産地 (平成21年産対象繭数量)	特徴等 (産地、蚕品種 etc)	備考
H21 承認	日本の繭ときもの文化を 考える会 (代表:田中種株式会社)	養蚕農家(2戸)、碓氷製 糸、南久ちりめん、高田 勝、田中種	群馬(360kg) 春180kg・晩秋180kg	蚕品種:春嶺×鐘月、錦 秋×鐘和	06-6261-2091
H21 承認	群馬絹文化研究会 (代表:有限会社ミラノリブ)	養蚕農家(4戸)、碓氷製 糸、東北燃糸、今井染色、 ミラノリブ	群馬(1,000kg) 春1,000kg	蚕品種:ぐんま200	027-720-8801
H21 承認	日本蚕糸絹業開発協同組合 国産シルク研究会 普通蚕種部会	養蚕農家(52戸)、碓氷 製糸、カプト、坪金工業、 渡辺絹織物、番國、長島 織物、江島屋染工場、 絹小沢	群馬(13,300kg) 春5,300kg・初秋3,300kg・ 晩秋4,700kg	蚕品種:春嶺×鐘月、錦 秋×鐘和	027-361-2311

※構成者の下線は、各提携グループの代表者(企業等)であり、備考に連絡先の電話番号が記されています。

---

---

## II 平成 21 年度蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の取組経過の概要

### 1 蚕糸・絹業提携システム形成支援事業

#### (1) 提携システム構築コーディネイト事業（大日本蚕糸会直接執行）

##### ア 業務運営基本方針等

###### (ア) 蚕糸・絹業提携システム全国推進協議会の開催

- ・平成 22 年 2 月 25 日開催
- ・21 年度事業実施状況報告及び 22 年度事業実施方針等

###### (イ) 事業推進委員会の開催

- ・平成 22 年 3 月 30 日
- ・蚕糸絹業提携支援緊急対策事業の進捗状況及び新たな提携申請グループの審査

##### イ 川上・川下における情報収集・提供

- ・養蚕農家、製糸業者、製織、流通、小売り等関係者への情報収集・提供の実施（パンフレット等の配布、説明等）
- ・シルク情報誌（シルクレポート）の発行（5 月から隔月発行）
- ・前年度（株）東レ経営研究所に委託した調査報告書（「純国産絹製品の消費動向及び市場評価に関する調査分析報告書」）の配布
- ・ホームページの充実等（コーディネーターハンドブック、本事業の Q & A の作成  
・更新と HP への掲載等）
- ・全国蚕糸行政連及び全農が主催する蚕糸絹情報連絡会議等での情報交換会の開催（平成 21 年 11 月 6 日）

##### ウ 提携システム構築相談

- ・J A、製糸、絹業及びコーディネーター等への説明会及び個別相談への対応
- ・県、製糸、農協等と連携した、養蚕農家の意向把握と提携システム参加の具現化

---

---

エ 蚕糸・絹業情報交換会の開催

- ・緊急対策事業実施提携グループとの意見交換の実施（随時）
- ・純国産絹マークの使用許諾者との意見交換会（10月以降実施）
- ・シルク工房等の実態調査及びシルク工房等関係者との緊急対策事業への取組について情報連絡会の開催（平成22年1月21日）
- ・シルクのまちづくり市区町村協議会への参画

オ コーディネーターの登録・派遣

- ・コーディネーターの登録131名（19年度23名、20年度78名、21年度30名）
- ・コーディネーター活動への支援（提携グループ構築へ活動計画提出 コーディネーター49名）

(2) 提携システム構築バックアップ事業（大日本蚕糸会直接執行、一部委託）

ア 特殊繭の生産に関する研修及び指導

- ・中央研修会（養蚕成績検討会（1月開催））
- ・地方研修会（栃木、福島、群馬開催）

イ 養蚕・製糸資材の安定供給

- ・養蚕資材不足状況等の現状分析（前年度全農の委託事業の報告を下に、養蚕資材メーカーから情報収集中）並びに養蚕資材等の生産及び供給システムの構築等（ワーキンググループ設置・第1回検討会開催）（10月20日）

ウ 純国産絹製品の試作、展示会及びPR活動の実施

(ア) 純国産絹製品の展示・PR活動（全国3地区）

a 全国3地区に純国産絹製品展示・PRコーナー設置

- ① 群馬県立日本絹の里（群馬県高崎市）に展示・PRコーナー設置（前年度に引続き実施）
- ② ジャパンシルクセンター（東京都千代田区）に展示・PRコーナー設置（21年5月）
- ③ 西陣織工業組合（西陣織会館（京都市））に展示・PRコーナー設置（委託事業21年7月）

b 純国産絹製品展示・PRコーナー担当者との情報連絡会議の開催（10月、2月）

---

---

(イ) (社) 日本絹業協会に対する委託事業を通じて展示会、試作、PR 活動等を実施

純国産絹製品試作、百貨店等の展示会開催、純国産絹製品 P R 活動等を実施

- ・純国産絹製品展示会（全国主要都市）（5 月京都市開催、7 月東京日本橋高島屋開催、3 月名古屋市で開催）
- ・日本染織文化博覧会への参加（純国産絹展、東京：日本橋高島屋、三越、10 月 21 ～ 28 日）
- ・(社) 日本デザイナークラブへの洋装品試作制作依頼と発表開催（全国 5 カ所でファッションショウの開催 21 年 10 月以降開催）
- ・純国産絹展の開催（全国地方都市）（群馬県 富岡製糸所ブリューナ館、10 月 31 ～ 11 月 3 日）
- ・爽りのフェスティバルに参加（東京ビッグサイト、11 月 6 ～ 7 日）
- ・純国産シルク企画製品展開催（東京ジャパンシルクセンター、2 月 2 ～ 4 日）

エ 純国産絹マークの制作、承認、配付、普及及び管理の実施

(ア) (社) 日本絹業協会に委託事業として実施

- ・純国産絹マークの制定 20 年 3 月
- ・純国産絹マーク審査委員会の開催（概ね隔月開催）、純国産絹マークの配付及び P R、純国産絹マークの使用実態調査の実施等

(イ) 純国産絹マークの許諾状況

- ・22 年 2 月 1 0 日現在（純国産絹マーク許諾者 113 業者 262 表示対象製品）

(3) 純国産絹製品づくり条件整備事業

ア 稚蚕の安定供給

事業対象 7 県 1 8 稚蚕共同飼育所において事業実施（対象箱数：6,508.2 箱）

① 岩手県南農業協同組合

- ・1 飼育所（岩手南農協花泉稚蚕共同飼育所 計 228.3 箱）

② 宮城県養蚕産地育成協議会

- ・3 飼育所（筆甫、耕野、入谷） 計 158.0 箱

③ 福島県優良繭生産推進協議会

- ・1 飼育所（持藤田（田村市）計 1,104.0 箱）

- 
- 
- ④ 栃木県養蚕産地育成協議会
    - ・ 2 飼育所 (JA 小山稚蚕共同 531.3)、JA 那須南稚蚕人工 381.2) (計 912.5 箱)
  - ⑤ 群馬県養蚕産地育成協議会
    - ・ 9 飼育所 (前橋市農協 2、はぐくみ農協 1、碓氷安中農協 1、甘楽富岡農協 1、小川稚蚕 1、上沼稚蚕 1、倉沢 1、影沢稚蚕 1) (合計 4,032.4 箱)
  - ⑥ 千葉県養蚕産地育成協議会
    - ・ 1 飼育所 (42.0 箱) (東金市稚蚕共同飼育所)
  - ⑦ 熊本県蚕糸振興協力会
    - ・ 1 飼育所 (31.0 箱) (下益城郡東部稚蚕人工飼育センター (下益城郡豊野町))

#### イ 機械・機材整備事業

以下の 2 製糸事業者で事業の実施

- ① 株式会社宮坂製糸
  - ・ 特殊生糸等繰糸機 (諏訪式座繰り機、上州式座繰り機) の設置
- ② 松沢製糸所
  - ・ 煮繭機 (煮繭機、撰繭機) の設置

## 2 蚕糸・絹業提携システム確立対策事業

### (1) 提携システム確立のための支援

ア 19 年度承認分 (平成 20 年 3 月 3 日 第 1 回事業推進委員会)

- ① グループ 167 (織道楽 塩野屋)
  - ・ 繭生産量 (259.7kg)、(蚕品種: 緑繭 1 号 (都浅黄)、黄白 (雌が黄、雄が白))
  - ・ 繭生産地: 京都府、製糸: 宮坂製糸
  - ・ 製品: マフラー、シャツ、靴下、腹巻き、手袋、ウオーマー、副産物 (蛹等)
- ② 白繭細 1 号プロジェクト開発チーム (株式会社マルシバ)
  - ・ 繭生産量 (1,229.3kg)、(細織度蚕品種: 白繭細 1 号)
  - ・ 繭生産地: 長野県、製糸: 碓氷製糸、製織: 五泉、丹後
  - ・ 製品: 着物、組紐、お召し
- ③ "絹を未来に" プラチナボーイ研究会 (マルシバ)

- 
- 
- ・繭生産量 (1,280.8kg) (蚕品種：プラチナボーイ)
  - ・繭生産地：茨城県、千葉県 製糸：碓氷
  - ・製品：プラチナボーイを使った男物着物（結城紬、大島紬等）及び関連製品

④ 日本蚕糸絹業開発協同組合同産シルク研究会（絹小沢）

- ・繭生産量 (21,800.6kg) (群馬県育成蚕品種：ぐんま 200、新小石丸、上州絹星、世紀 21、ぐんま黄金)
- ・繭生産地：群馬県、製糸：碓氷、製織：丸進機業（株）他 5 社
- ・製品：胴裏絹、白生地、黒紋付、八掛等

イ 20 年度承認分（平成 20 年 4 月 2 2 日 第 2 回事業推進委員会）

① 蚕太開発グループ（門倉メリヤス）

- ・繭生産量 274.2kg、（太織度蚕品種：蚕太）
- ・繭生産地：群馬県、製糸：碓氷、編：門倉メリヤス、蜂須メリヤス、
- ・製品：ニット製品（ジャケット、セーター、パンツ、ボウシ、カーディガン）

② 富岡シルクブランド協議会

- ・繭生産量 (6,388.0kg)、（蚕品種：一般蚕品種（ぐんま 200、錦秋鐘和））
- ・繭生産地：群馬県、製糸：碓氷製糸、宮坂製糸
- ・製品：（まゆパフ、スカーフ、ハンカチ、つるるんタオル、美術工芸品、繭クラフト、おみやげまゆ・生糸等市内の消費を中心に多様なアイテムを展開）

ウ 21 年度承認分（平成 21 年 4 月 2 日 第 3 回事業推進委員会）

① 群馬絹文化研究会（（有）ミラノリブ）

- ・繭生産量 (1,082.5kg) (蚕品種：ぐんま 200)
- ・繭生産地：群馬県、製糸：碓氷製糸、撚糸：東北撚糸、染色：今井染色
- ・製品：洋装ニット製品

② 日本の繭ときもの文化を考える会（田中種株式会社）

- ・繭生産量 (276.9kg) (群馬県 J A 碓氷安中、春嶺×鐘月、錦秋×鐘和)
- ・繭生産地：群馬県、製糸：碓氷製糸
- ・製品：絹織物（極型小紋白生地）

③ 日本蚕糸絹業開発協同組合同産シルク研究会 普通蚕種部会

- ・繭生産量 (12,846.1kg) (蚕品種：春嶺×鐘月、錦秋×鐘和)
- ・繭生産地：群馬県、製糸：碓氷製糸、
- ・製品：絹織物（胴裏絹等）

---

---

(2) 養蚕経営の支援（平成 21 年度繭代補填）

繭代補填

繭生産量（計画）		実績	
春 蚕	132,982kg	春 蚕	102,617kg
初秋蚕	84,905kg	初秋蚕	80,262kg
晩秋蚕	127,787kg	晩秋蚕	98,639kg
<hr/>		<hr/>	
計	345,674kg	計	281,519kg

### Ⅲ 平成 22 年度第 1 次純国産絹マーク使用許諾状況

(天蚕糸製品を初めて認定)

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成22年度第1回審査会を4月6日(火)に開催しました。今回、12件(うち、新規の申請2件、名称の変更が1件、生産数量・生産履歴の追加申請が1件、許諾対象製品の追加及び生産数量の変更並びに生産数量の追加申請が1件、生産数量の追加申請が7件)から申請があり、審査委員会で審査した結果12件に対し、4月13日(火)付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

純国産絹マーク使用許諾者は次の12件です。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
りょうぜん天蚕の会 福島県伊達市霊山町中川字橋本9 代表者名 柳沼 泰衛 (担当者:柳沼泰衛) TEL 024-586-3004 表示者登録番号 114	天蚕紬糸 ショール 天蚕ハイブリッド ショール	5枚 25枚	蚕品種 天蚕、天蚕・錦秋×鐘和 繭生産 福島県伊達市養蚕農家 天蚕紬糸・製糸 自家 染織 自家
有限会社金屋 新潟県上越市稲田2丁目2番5号 代表者名 矢澤 哲也 (担当者:矢澤哲也) TEL 025-523-2789 表示者登録番号 115	後染反物 (色無地)	20反	繭生産 茨城県南地域養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 三共織物(株) 染色 小林染工房 制作企画 (株)猪井
(生産数量, 生産履歴の追加) 装いの道株式会社 代表者名 山中 英靖 東京都千代田区麹町4丁目4番1号 (担当者:山中英靖) TEL 03-3230-3010 表示者登録番号 070	胴裏絹 ぐんま 200 ぐんまレピア 新小石丸	300枚 250枚 30枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 蚕品種 ぐんま 200、春嶺鐘月、 ぐんま 200・新小石丸 繭生産 群馬県養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 丸進機業(株)、(株)カプト、 (有)長島織物 精練加工 (有)江島屋染工場
(生産数量の追加) 株式会社天野屋呉服店 代表者名 天野 晃作 栃木県小山市中央町3丁目1番29号 (担当者:天野晃作) TEL 0285-22-0062 表示者登録番号 073	胴裏絹 ぐんま 200 (灰汁浸け加工)	120枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 丸進機業(株) 精練加工 (有)江島屋染工場
(生産数量の追加) 株式会社小川屋 代表者名 荒木 俊 群馬県前橋市千代田町二丁目7番15号 (担当者:荒木 俊) TEL 027-231-6000 表示者登録番号 079	胴裏絹 ぐんま 200 (灰汁浸け加工) (トルマリン加工)	60枚 60枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 丸進機業(株) 精練加工 (有)江島屋染工場

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産数量の追加) 株式会社登美屋 代表者名 高橋 祥元 岩手県北上市上江釣子 18-14-1 (担当者:高橋祥元) TEL 0197-77-2121 表示者登録番号 084	胴裏絹 ぐんまレピア (パールト加工)	120 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発 (協) 繭生産 群馬県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株)カプト 精練加工 (有)江島屋染工場 加 工 (株)パールトン
(生産数量の追加) 株式会社とみひろ 代表者名 富田 浩志 山形県山形市香澄町一丁目 11 - 18 (担当者:富田浩志) TEL 023-635-1212 表示者登録番号 075	胴裏絹 ぐんま 200	120 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発 (協) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 山直織物 (株) 精練加工 (有)江島屋染工場
(生産数量の追加) 京和きもの株式会社 代表者名 高橋 忠臣 神奈川県厚木市中町三丁目 2 番 12 号 (担当者:高橋忠臣) TEL 046-223-0034 表示者登録番号 077	胴裏絹 ぐんま 200	240 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発 (協) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 山直織物 (株) 精練加工 (有)江島屋染工場
(名称変更) 株式会社大丸松坂屋百貨店 代表者名 山本 良一 東京都江東区木場二丁目 18 番 11 号 (担当者:山本良一) TEL 03-3820-7069 表示者登録番号 087	胴裏絹 羽二重 比翼・振袖用 長襦袢用	350 枚 210 枚 140 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発 (協) 蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 群馬県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (有)長島織物 精練加工 (有)江島屋染工場
(許諾対象製品の追加 及び生産数量の変更) 21 年産繭 新	後染反物 (江戸小紋) 帯	110 反 50 本	繭生産 J A 上伊那管内養蚕農家 製 糸 (株)宮坂製糸所 製 織 織処丸重 染 色 (株)一会
旧 (21 年第 1 回)	後染反物 (江戸小紋)	120 反	同上
(生産数量の追加) 株式会社丸万中尾 代表者名 中尾禱夫 滋賀県長浜市室町 1 8 0 番地 (担当者)中尾禱夫 TEL 0749-62-1660 表示者登録番号 028	後染反物 (江戸小紋) 帯 後染反物 (変一越、江戸小紋) (紋意匠、江戸小紋) (変一越、友禪) (変一越、色無地)	50 反 25 本 100 反 100 反 80 反 150 反	同上 蚕品種 春嶺×鐘月、ぐんま 200 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん、小林商店 染 色 (株)一会、柏田屋 (株)、啓明商事
(生産数量の追加) 株式会社千總 代表者名 西村 總左衛門 京都市中京区三条通烏丸西入る (担当者:儀 武司) TEL 075-211-2531 表示者登録番号 001	後染反物 (色無地)	250 反	繭生産 宮城県北部養蚕農家 青森県八戸市養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株)松浦絹織 染色加工 自社
(生産数量の追加) 田中種株式会社 代表者名 田中 隆 大阪市中央区南本町 2-1-8 創建本町ビル 3 F (担当者:田中 隆) TEL 06-6261-2091 表示者登録番号 060	後染反物 (小紋)	58 反	繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 南久ちりめん (株) 染 色 高田勝 (株)

次回審査会の予定は6月9日(水)です。申請される方は審査会の10日前までに申請書を提出してください。

## 学生たちとのシルク商品開発

～仮想企業「繭美蚕<sup>まゆみさん</sup>®」と門倉メリヤスによるこれまでの取組み<sup>1)</sup>～

共愛学園前橋国際大学

教授 兼本雅章

門倉メリヤス株式会社

代表取締役社長 門倉重行

### 1. はじめに

共愛学園前橋国際大学（前橋市小屋原町）では、学生たちに仮想企業を立ち上げさせ、実際に県内の企業の支援を得ながら、商品開発に取り組む産学連携の授業を行っている<sup>2)</sup>。この取組みの一環として、「繭美蚕（まゆみさん）」は、2005年6月に兼本雅章准教授の課題演習（3年）の学生4名で設立された。その当時から、門倉メリヤス株式会社（前橋市日吉町）を支援企業とし、これまで兼本ゼミの学生が代々引き継ぎながら、シルクを使った商品開発・販売の活動を行ってきた。

### 2. 「繭美蚕（まゆみさん）」の活動

設立当時の「繭美蚕（まゆみさん）」は、仮想企業の全国大会であるトレードフェアで、優秀な成績を残すことに力点をおいた活動をしていた<sup>3)</sup>。2005年度のトレードフェアにおいて、専門学校・大学の部で最

優秀賞を受賞、翌年度も同部門の展示部門優秀賞、と2年連続1位という結果を残すことができた<sup>4)</sup>。そこで、それまでの活動の成果から、門倉メリヤス株式会社より「繭美蚕（まゆみさん）」という名前をブランド化して、商品を販売していきたいという申し入れがあった。大学側としてはこれを快く承諾することとなる。ブランド化の背景には、「繭美蚕（まゆみさん）」というネーミングが、シルクに関わる人々にとって素晴らしいものであり、そのまま何もしないでおくのは惜しいという理由もあった。その後、2007年1月には、門倉メリヤス株式会社が「繭美蚕（まゆみさん）」というブランド名で『レッグウォーマー』の販売を開始することになる。

「繭美蚕（まゆみさん）」は、2007年度のトレードフェアでも、専門学校・大学の部で展示とHPの2部門で優秀賞の成績を上げ、実質上の3連覇を果たす。その際

の主力商品『シルクウォッチバンド』は、2008年3月に繭美蚕ブランド3号として発売されることになった<sup>5)</sup>。この商品は、学生の意見をもとに、門倉メリヤス株式会社と共同して商品開発を行い、群馬県が育成したオリジナル蚕品種「蚕太」を使用して完成させたものである<sup>6)</sup>。学生オリジナル商品1号ということもあり、これを契機に商標を取得しようという動きが起きることになる。様々な調整ののち、2008年6月に、学校法人共愛学園が「繭美蚕<sup>まゆみさん</sup>」で商標を申請し、2009年2月には正式に登録されることになった。ブランド名でもあるが、仮想企業名を商標登録したこの話題には、大きな反響があり、新聞各社で取り上げられただけでなく、インターネットでも広く配信された<sup>7)</sup>。

このため、繭美蚕ブランドの展開、『シルクウォッチバンド』の販売、商標の登録などから、「繭美蚕（まゆみさん）」を仮想企業から実際の企業に近い活動に移行しようとする試みが始まる。2009年度には、共愛学園前橋国際大学の独自のシステム『学生社長』に採用され、大学内にオフィスを持つことができたため、積極的な活動を行えるようになった<sup>8)</sup>。そこで、まずは自分たちで販売活動を行う機会を増やすことを考えた。また、6月には繭美蚕ブランドを販売するネットショップ (<http://mayumi3.shop-pro.jp/>) を開設するとともに、ブログ『繭美蚕（まゆみさん）「繭と生糸は日本一」』ブログ (<http://ameblo.jp/mayu-mi-san/>) を始めた。インターネッ

トを通じた情報発信で「繭美蚕（まゆみさん）」の活動や群馬のシルクの素晴らしさをアピールしようという試みである<sup>9)</sup>。また、他大学の学生とコラボした企画を考えたり、最年少で富岡製糸場世界遺産伝道師の資格を取得したり、シルクウォッチバンドの学園モデルや新商品を考えたりと学生自らのアイデアで活動の幅を広げてきている。



写真1 シルクウォッチバンド

### 3. 新商品の開発

2010年2月、新しい繭美蚕ブランドの商品「ネックウォーマー」と「ルームソックス」を『あったカイコシリーズ』として販売を開始した。これらの商品は、「繭美蚕（まゆみさん）」の商品開発担当者と門倉メリヤス株式会社が共同して商品開発を行い完成させた『シルクウォッチバンド』に続く、学生オリジナル商品である。

#### (1) ネックウォーマー

この商品の開発のきっかけとしては、2つの意見が大きな軸となっている。1つは、実際に「繭美蚕（まゆみさん）」の商品開



写真2 ネックウォーマー（通常時）



写真3 ネックウォーマー（防寒時）

発担当者がプロサッカー選手と話をしたことである。練習中にネックウォーマーを利用しているが、アクリルやポリエステルといった化学繊維のものでは、汗を吸いこみ、重たくなってしまうことや、商品によってはゆるすぎてずれてしまうという不満があるという。もう1つは、普段の生活において、お風呂上がりや就寝する際に、首元からの冷えを気にする人が意外と多いことだった。

そこで、この商品は、シルクの吸水性・放出性・保温性に注目し、口元まで覆う長さにするすることで、首の保温に加えマスク着用時と同様の効果をもたらすように考えてある。また、ゴム地によって伸縮することや、立体裁断で首の中に風を通さない作りにしてあるため、寒い時期のお風呂上がりや就寝時でもしっかり首を保温し、使用しても気にならない工夫をしている。さらに、シルクの吸湿性・発散性により、夏でも涼しく使用することができ、夏場の汗による首元のアレルギーに対するのサポーターとしても活用できそうである。

## （2）ルームソックス

開発のきっかけは、繭美蚕ブランドの「絹美人」という洗顔パフを販売するにあたり、「この商品は足に使うのですか」とよく間違えられたことからである。間違えた人の多くは、足のカサつきなどを気にしていた。また、多くの女性は冷え症に悩んでいる。これらの解消を考え、シルクにある保温・保湿効果に着目した。内側には保温性のあるシルクを使用し、外側には発熱性のあるヒート素材を使用することで足の保温と、この2重加工が保湿ももたらすことから、カサつくかかとへの潤いも保てる商品となった。



写真4 ルームソックス

---

---

#### 4. 今後の展開

現在、『シルクウォッチバンド』や『あったカイコシリーズ』などを含む繭美蚕ブランドは、門倉メリヤス株式会社の直販店「セタ ヴィオレッタ」や「繭美蚕（まゆみさん）」のネットショップ（<http://mayumi3.shop-pro.jp/>）などで注文・販売を行っている。

2010年度、メンバーを一新した「繭美蚕（まゆみさん）」は、再び『学生社長』に採用されることになり、すでに新商品開発に向けて積極的に動き始めている。今後も、「繭美蚕（まゆみさん）」と門倉メリヤス株式会社は、引き続き共同して商品開発を行ない、商品販売などをしていくこととなっている。

#### 注

- 1) 「繭美蚕®」は学校法人共愛学園の登録商標である。
- 2) 仮想企業とは、インターネット上に仮想の会社を設立し、企業経営や電子商取引を体験するものである。共愛学園前橋国際大学では、起業家精神にあふれた人材育成を目的に、NPO法人アントレプレナーシップ開発センター（京都市）が開発した教育プログラム「バーチャル・カンパニー」を使用している。
- 3) トレードフェアとは、通常インターネット上で取引している「バーチャル・カンパニー」の参加者が一斉に京都に集まり、対面販売を体験すると同時に、商品アイデアの新奇性や事業内容、プレゼンテーション、セールスマナーなどの優劣を競う全国大会である。2001年度から毎年開催されている。
- 4) 表彰形式が2006年度から変更になった。ただし、2008年度から以前のものに戻っている。
- 5) 2008年9月20日の朝日新聞の記事では、「販売から約半年で、当初用意した250個は完売し、増産した150個も半数が売れた」と書かれている。
- 6) 群馬県蚕糸技術センターが太織度用蚕品種として育成した群馬県の第6番目の蚕品種で、2003年2月に「蚕太」と命名された。繭は一般品種に比べて小振りであり、生糸量歩合はやや少な目だが、繭糸の太さ（センド）は4デニール以上と太い特徴を持っている。門倉メリヤス株式会社の門倉重行社長はこの開発に関わった1人である。
- 7) この影響であると思われるが、2010年4月現在、仮想企業の実例として、Wikipediaに「繭美蚕（まゆみさん）」の名前が載っている。
- 8) 学生社長とは、学生が社長となって実際にEコマース（電子商取引）をおこなう制度である。共愛学園前橋国際大学では、現実のビジネスによる生きた教育の場を学生に提供するために2000年度より実施している。起業を支援するプログラムだが、起業そのものより、あくまでも自立心や創造性溢れる学生を輩出することを目的としている。
- 9) その後、公式ホームページ（<http://www.mayumi3.com>）もリニューアルされている。

---

かねもと まさあき  
共愛学園前橋国際大学教授

かどくら しげゆき  
門倉メリヤス（株）代表取締役社長

## 名古屋市で初の開催

—活況だった純国産絹製品展—

社団法人 日本絹業協会

きものの四大消費地の一つである名古屋市で、純国産の絹製品の良さを多くの方々に知っていただくため、純国産絹マークを添付した絹製品の展示会を丸栄（名古屋市）で開催しました。期間は平成22年3月4日（木）～9日（火）の6日間で、雨天の日が続きましたが、延べ1千人の来場者がありました。

名古屋圏内では、純国産絹マークを未だ取得した業者はおりませんが、日本の繭・生糸を素材とした純国産絹製品を実際に目にされた消費者の皆さんは、その商品の特徴に多くの方が注目されました。

展示会は、3月4日（土）に丸栄、名古屋織物卸商業組合、報道機関等約50名の参加者を得て、開会式が行われました。高木賢日本絹業協会会長の開会挨拶「国産生糸は減り続けているが、今一度その良さを見直すきっかけになれば」との続き、来賓挨拶として江崎美治洋丸栄取締役社長が「市場開拓に向けて組織的な研究を重ねている協会の皆様に敬意を表したい」と祝辞を述べました。その後、テープカットが行われ、純国産絹製品展が開幕しました。



写真1 純国産絹製品展会場風景

出展者は15社で、その他に群馬県蚕糸技術センターから譲り受けた4齢と5齢のカイコ（300頭）の飼育展示、日本蚕糸絹業開発協同組合からは蚕柵、繭の入ったわら<sup>まぶし</sup>族、回転<sup>まぶし</sup>族の展示に、座繰器を使った繰糸実演が行われました。また、岐阜シルク連絡協議会「絲の会」は岐阜県の繭を使った繭クラフト、摺りだし生糸の繰糸、機織りの実演を行い、来場者への関心を集めました。

会場には、絹業協会を用意した「出展目録」の他に、会場内には各社の製品の特徴を簡潔に記述した「製品概要パネル」などを展示して来場者に生産者が提携してすば

らしい純国産絹製品づくりをしていることをアピールしました。繭からどのようにして生糸になるか、生糸とはどのようなもの

かを解説するとともに、蚕糸・絹業の提携システム及び純国産絹マークの理解促進につとめました。

#### 各社の展示等絹製品とその特徴

出展者名	展示等絹製品	製品の特徴
浅山織物（株）	「帯」	経糸は生染めで日本太古の織物「倭文（しどり）」の再現を目指した帯
綾の手紬染織工房	「花織結びもの、藍染きもの、ショール他」	蚕品種「小石丸」の繭を座繰り繰糸した生糸を用いた草木染め絹製品
（株）伊と幸	「又昔紋意匠色無地三丈、又昔変無地色無地四丈」	蚕品種「又昔」「上州絹星」繭から繰糸した生糸を用いた絹製品
（株）岩田	「糸錦袋帯」	蚕品種「あけぼの」繭から多条機で生繰り繰糸した生糸を西陣で培われた工芸技術を生かした絹製品
（株）小倉商店	「結城紬」	蚕品種「朝・日×東・海」繭から繰糸した生糸を用いて開発した独自製品
織匠 万勝	「袋帯、先染着尺」	優良繭から繰糸した生糸を用い、西陣織が持つ高度な技術の融合による絹製品
（有）織道楽塩野屋	「緋、帯、ニット製品他」	京都府の色繭蚕品種「都浅黄・黄白」繭を生繭繰糸した生糸を用いた絹製品
門倉メリヤス（株）	「靴下、ジャケット、セーター、カーディガン」	太織度蚕品種「蚕太」繭から繰糸した生糸を用いた洋装絹製品
（株）銀座もとじ	「大島紬、結城紬、江戸小紋、籠紋り」	蚕品種「プラチナボーイ」繭から繰糸した生糸を用いた男物きもの
（株）千總	「後染反物（訪問着、付下げ、色無地）」	徹底した飼育管理による優良繭から繰糸した生糸を用いた絹製品
日本蚕糸絹業開発（協）	「白生地、胴裏、八掛地、長襦袢地、後染反物」	群馬県の多様な蚕品種繭から繰糸した生糸を用いた生地にトルマリン加工、灰汁加工等を施した絹製品
（株）榎屋高尾	「渡来錦」	正倉院に現存する渡来錦を「新小石丸」生糸で再現した織物
（株）丸万中尾	「江戸小紋」	製造を信州にこだわった製品を蚕品種「ぐんま 200」でつくった江戸小紋
（有）ミラノリブ	「絹ニットスーツ、ショール、ストール他」	上州座繰り生糸による洋装絹製品
山音（株）	「かぐやきぬ冬（三越）、かぐやきぬ夏（駒絹）」	群馬県の繭に水撚り、先練りの技術を駆使した絹製品

## 各種実演と蚕の展示も好評

今回の会場は、丸栄が「創業395周年きもの大祭典」を隣の会場で開催し、相乗効果の中で、来場消費者の関心を迎え、絹のきものでつながる日本の文化を紹介することができました。

また、本展示会での実演（繭クラフト、直繰生糸、製織、座繰生糸の実演展示、4齢、5齢カイコの飼育展示）を行いました。実演及び飼育展示は、来客者の興味をそそりました。丸栄の店員も休憩時間に多数の方が訪れ、カイコの飼育展示を眺めていました。また、来客の中には、過去に養蚕をしていた者も多くおられ、懐かしそうにカイコに触れていました。

来客者からは、

- ・カイコの飼い方のパンフレット等はないか。
- ・住宅の室内装飾に絹を使えないか。
- ・玉繭はどのような時にできるのか。

との声もあり、また、「繭の糸は、大変細く、絹織物を作るには、多くの繭と多くの過程、作業が必要であること」を消費者の声として知ってもらえたことは、純国産絹マークの必要性に加えて、有意義でありました。



写真2 展示パネルとカイコの飼育展示

## 「日本絹の里」からの情報発信に注目してください

財団法人群馬県蚕糸振興協会  
上野 邦彦

群馬県立日本絹の里では、多くの人々に天然繊維である絹の素晴らしさを理解してもらうための展示とともに絹文化と蚕糸技術等の継承発展の重要性などについての情報を発信しています。

平成 21 年 3 月、当館に蚕糸・絹業提携システム P R コーナーが財団法人大日本蚕糸会によって設置され、国産繭・生糸の希少性を活かした高品質な純国産絹製品を紹介する展示が始まりました。本稿では蚕糸・絹業 P R コーナーでの純国産絹製品の展示状況と日本絹の里の企画展等における純国産絹製品等の展示状況について紹介させていただきます。

### ■蚕糸・絹業 P R コーナーでの純国産絹製品の展示・紹介

ここでは純国産絹マークの紹介パネルとともに着物、反物、帯、ニット製品、スカーフなどの多様な純国産絹製品を展示・紹介しています。

製品の展示は、日本絹の里の企画展等の展示入替に合わせて、約一ヶ月毎に入れ替えを行っていますが、できるだけ多くの製品を紹介できるように努めています。また、パネル等により純国産絹製品は希少な国産繭・生糸の特徴を活かしていることや繭生産から製品加工までの生産履歴が明らかになっていることなどを紹介するとともに、需要拡大に結びつくような情報の発信に心がけるようにしています。



写真 1 純国産絹マークの紹介パネル等の展示



写真2 和装、洋装、小物などの多様な製品の展示



写真3 「群馬の絹」展（第9回）での純国産絹製品の展示・即売の状況

#### ■「群馬の絹」展で純国産絹製品の展示・即売

「群馬の絹」活性化研究会と日本絹の里の共催により平成22年1月14日から18日までの5日間、日本絹の里を会場に「群馬の絹」展（第9回）を開催しました。この展示会は活性化研究会の会員が、群馬の絹を使用して独自に開発したオリジナル絹製品を展示し、広く県内外の人たちにPRするとともに群馬県産の繭や絹に「ふれあい・親しむ」場を提供し、絹への理解を深め需要拡大を図ろうとするものです。期間中、純国産絹製品の展示・即売やシルクの草木染め、手織り、組紐などの絹製品作り教室、着物の着付け体験などが行われ、約1,600人の来館者がありました。

この「群馬の絹」展は平成22年度も平成23年3月10日から15日までの6日間、日本絹の里を会場として開催する予定になっています。

#### ■平成21年度の企画展、特別展で純国産絹製品等を紹介

平成21年8月22日から開催された企画展「進化するシルクの世界VOL II」の「人々を魅了するシルクの織物のコーナー」では「ぐんま200」などの群馬県オリジナル蚕品種の生糸を使用し、最新技術などにより製作された純国産の絹製品の紹介を行いました。また、3月13日から開催された第6回の日本絹の里工芸展では「ぐんま200」などの生糸を使用した純国産絹製品を用いて製作された工芸作家の作品等を展示しました。なお参考展示として、群馬県オリジナル蚕品種の「新小石丸」を経糸及び地糸に用い緑色蛍光絹糸と赤色蛍光絹糸を使用した純国産の絹製品による雛人形の展示も行いましたが、多くの方々が興味を持って鑑賞してくださいました。



写真4 企画展「進化するシルクの世界 VOL. II」での展示状況



写真5 実際に手で触れられる展示  
群馬県オリジナル蚕品種の生糸



写真6 精練の前後の生糸



写真7 シルクショップでの純国産絹製品等の販売

## ■絹の素晴らしさを紹介する平成22年度の企画展、特別展

企画展としては4月17日から5月24日までは「華やかな婚礼衣装—きものの美—」が開催されています。婚礼衣装をテーマに取り上げ、江戸時代から明治、大正、昭和、現代にかけての絹の婚礼衣装を展

示しています。また、10月16日から11月29日までは「今に生きる織物産地—西陣—」姉妹提携記念 西陣至宝展を開催する予定です。サブタイトルにあるように日本絹の里と西陣織会館が昨年度姉妹提携を結びました、これを記念しての企画展で、1200年余の歴史を誇る日本の代表的産地

---

---

京都 西陣の織物を紹介します。なお、西陣織会館にも、蚕糸・絹業PRコーナーが設置されています。

特別企画展として縮緬の着物の古布などを用いて創作された作品により絹の素晴らしさを紹介する「辻村寿三郎人形展 VOL. IX」を平成23年1月22日から3月6日まで開催する予定です。

特別展としては5月29日から7月12日まで「ちりめん創作人形展」が開催されます。また、第7回の日本絹の里工芸展が平成23年3月19日から開催される予定になっています。これらの展示を通して来

館者に絹の素晴らしさなどを紹介する予定です。

#### ■蚕糸や絹の理解を深める常設展示等

群馬県オリジナル蚕品種の繭、生糸の展示コーナーでは、「ぐんま200」、「世紀二一」などの生糸が直接手で触れられるようにしたタワー型の展示があります。また、精練前と精練後の絹を実際に手で触れて、その違いを実感できるコーナーもあります。

この他、シルクショップでは純国産絹製品の販売も行って絹の良さ、素晴らしさを実感していただけるようにしています。

---

うえの くにひこ  
(財)群馬県蚕糸振興協会

## 支援センター活動日誌No. 12 (H22.3.1 ~ H22.4.30)

年月日	活 動 内 容 等
22.3.3 ~ 22.3.5	愛媛県における蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る打合せ（愛媛県）
22.3.4 ~ 22.3.9	(社) 日本絹業協会による純国産絹製品展示会開催 (名古屋市、丸栄百貨店)
22.3.10 ~ 22.3.12	京都における織商・糸商等との蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る打合せ (京都府)
22.3.30	第4回事業推進委員会（東京都有楽町 蚕糸会館）
22.4.6	(社) 日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
22.4.16	群馬県における蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る打合せ（群馬県）
22.4.21	農協担当者等に対する蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業推進会議 (東京都有楽町 蚕糸会館)



名古屋で初の純国産絹製品展開催

# 東京青山に、きもの KYOTO アンテナショップ「白<sup>からす</sup>イ鳥」開設

## 京都市産業観光局商工部伝統産業課

### 1 京都の和装産業の現状

京都を代表する伝統産業である和装産業は、近年、消費者のきもの離れが進み、売上げの大幅な減少が深刻な問題となっています。生産量では、西陣織はピーク時の90%減、京友禅はピーク時の97%減となり、出荷額では、西陣織はピーク時の89%減、京友禅は85%減となっています(表)。加えて、作り手の後継者不足も深刻な状況となっていて、和装産業の活性化は喫緊の課題です。

この消費者のきもの離れの主な原因としては、「生活様式の変化」及び「きものを着る機会の減少」が挙げられます。例えば、現在の建物の多くが、洋服での生活が前提に設計されるなど、西洋化、高機能化したこと、女性の社会進出等により、機能的な動きやすい衣服が消費者に好まれる傾向があること、普段着としてきものを愛用するいわゆる「きもの世代」が減少してきたことなどが考えられます。

また、きものの保存方法やメンテナンスが難しく、きものが比較的高価であり価格設定がわかりにくいことも、消費者に「気

軽に着れない」「気軽に買えない」といった意識を持たれやすい要因のひとつであるといえます。

ところが、一方では、平成19年度に京都市が実施した「京もの戦略的マーケティング調査」によると、首都圏に住む団塊の世代にアンケートを実施した1,200人のうち17%の人が、「きものを購入したい」と回答されています。最近では、女性ファッション雑誌や男性ファッション雑誌にもきもの特集が頻繁に掲載されていることに加えて、きものスタイルブックなども書店に多く並んでいるのが見られます。

こうしたことから、消費者のきものへの「関心」や「興味」は依然根強く、潜在的な需要は高いと考えられ、この「関心」や「興味」をいかに実際の購入意欲にまで繋げていくかが重要な課題です。

京都市では、多くの市民の方々が和装産業関連事業に従事されていることから、京都経済の活性化、雇用の確保を図るためには、厳しい状況にある和装産業の活性化は欠かせない施策であるといえます。

京都市内製造業の全事業所を対象とした

表

西陣織、京友禪の生産量（平成 21 年）	
西陣織	ピーク時（昭和 50 年）の 10.2%（89.8% 減 ↓）
京友禪	ピーク時（昭和 46 年）の 3.3%（96.7% 減 ↓）
西陣織：西陣織工業組合「西陣機業調査報告書」「西陣生産概況」 京友禪：京友禪協同組合連合会「京友禪京小紋生産量調査報告書」	
西陣織、京友禪の出荷額（平成 20 年）	
西陣織	ピーク時（昭和 58 年）の 11.1%（88.9% 減 ↓）
京友禪	ピーク時（昭和 55 年）の 14.6%（85.4% 減 ↓）
西陣織：京都市の工業（絹・人絹織物業） 京友禪：京都市の工業（織物手加工染色整理業） *「製造出荷額等」を比較。平成 19 年調査から「その他収入額」が含まれる。	

京都市工業統計調査（平成 20 年度）によると、日本標準産業分類のうち、“絹・人絹織物業”（西陣織）及び“織物手加工染色整理業”（京友禪）に分類される事業所は、市内製造業全事業所数（6,594 件）のうち 21.7%（1,434 件）を占めています。これらに分類されない和装関連の事業所も多くあることから、和装関連事業所は京都市内において大きな位置を占めています。

## 2 きもの KYOTO アンテナショップ「<sup>からす</sup>白イ鳥」

「首都圏」における京都の和装産業の PR と消費者（主に、きものをまだ持っていない層・これから初めて購入を考えている層）の情報収集を主な目的として、平成 22 年 3 月に東京・南青山に「きもの KYOTO アンテナショップ「<sup>からす</sup>白イ鳥」」を開店しました。

この取組は、国の緊急雇用対策事業として実施しており、事業を通じた新たな雇用創出も実現しています。

きもの KYOTO アンテナショップ「<sup>からす</sup>白イ鳥」の主な目的は次のとおりです。

- 「白イ鳥」を拠点とした「首都圏」における京都の和装産業の情報発信
  - きものをまだを持っていない方、これから初めてきものを購入しようと考えている方等、いわゆる「きもの」初心者を中心にターゲットにすることによる新たな「きもの」購入者の創出
  - 「首都圏」の消費者ニーズを把握して、その情報を京都にフィードバックすることによる更なる産地の活性化
- これらの目的を達成するため、「白イ鳥」では、冠婚葬祭や成人式等の特別な場面で着るきものではなく、ビル街の中でもすんなりと溶け込むモダンさがあり、これまできものに関心のなかった人でも洋服感覚で着られるきものを提案しています。
- 色使い：いわゆる「日本の伝統色」とは違い、現代の生活の場に当たり前のように目にする色を基調とします。
  - 柄：都会に馴染みやすい幾何学模様や、古典柄を現代風にアレンジしたものを取り入れます。

### (店舗の特色等)

- ・京都の匠によるきものや帯をラインナップ

産地組合を通じた公募等により応募された作り手の製作現場にコーディネーターが直接訪問して、製作の依頼や商品企画等を行って完成した厳選されたきものや帯を中心に取り扱います。

- ・購入しやすい価格設定

きものと帯の価格帯を、おおよそ10万円代、20万円代、30万円代の価格帯に分類することで、まだきものを持っておられない方が、一着目のきものとして、お求めやすい価格設定とします。

- ・仕立上がり価格で表示

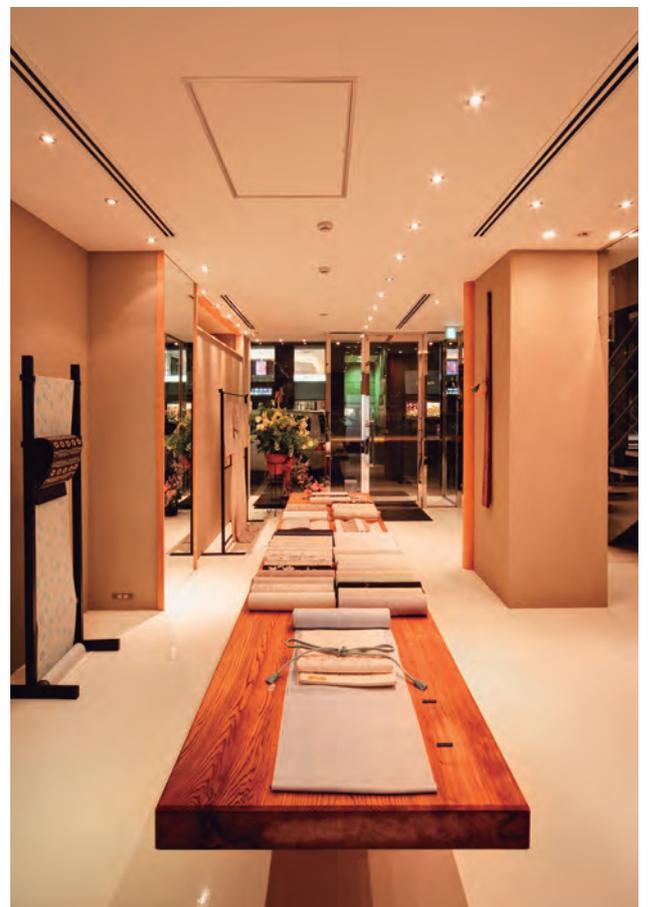
反物だけの価格ではなく、仕立代と裏地

代等を含めた価格を表示します。最初にトータルコストを提示することで、初めてきものを購入される方にも安心してお買い求めいただけます。

- ・明るく入りやすい外観と、シンプルかつモダンな店内

普段、洋服しか着用しない方、きものに関心のない方でも気軽に入店できるようなガラス張りの外観としています。また、店内は漆喰の壁や北山丸太など上質で伝統ある素材をさりげなく使用することで、シンプルかつモダンな和空間を演出しています。

次に、店名の由来ですが、古来より白い動物は高貴であるといわれ、また、八咫鳥（ヤタガラス）のように鳥は神聖な動物と





白イ鳥ロゴ

されていますので、現代の合理主義からは語ることでできない京都の伝統産業の奥深さや品格を表現しています。また、通常“鳥”からイメージする“黒”と真逆の“白”を組み合わせることで印象的なフレーズにするといったねらいもあります。

店名、ロゴとも、世界的に有名なグラフィックデザイナーである北川一成氏に考案していただきました。

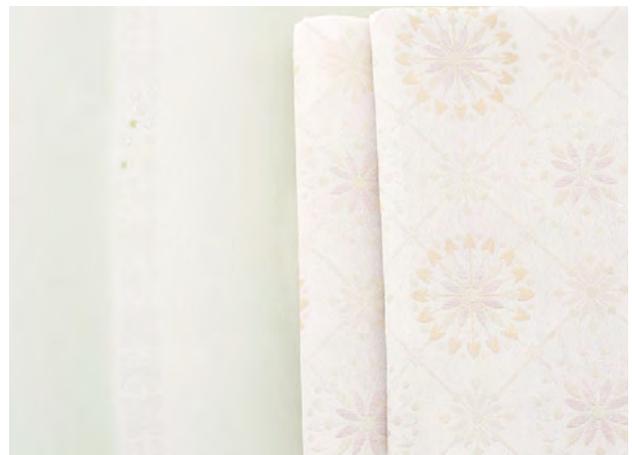
### 3 今後の展開について

京都市では、「白イ鳥」を拠点としながら、様々な和装プロモーション活動を展開していきます。

最近では、平成22年3月6日に開催された、若年層に圧倒的人気を誇る史上最大級のファッションフェスタ「第10回東京ガールズコレクション2010 SPRING/SUMMER」へ京都のきものと帯各9点を出展しました。洋装が中心の同イベントへきものを出展するのは初めてであり、京都の和装産業を大々的にPRすることができました。

出展したきものは、すべてアンテナショップで購入することが可能です。

今後も、きもの着用を促進する参加型イベントや、首都圏における京都の和装産業のPR等、精力的に取り組んでいく予定です。







<店舗の情報>

○所在地及びアクセス

東京都港区南青山 5-12-2

東京メトロ表参道駅 B1 出口を出て、渋谷方向へ。

骨董通りを左折し、2つ目の角の右側。

○営業時間等

営業時間： 午後0時～午後8時

休業日： 年末年始

○電話：03-3498-8588

○ホームページ：[www.461k.jp](http://www.461k.jp)

## 世界最高の蚕糸技術をいかし自立できる蚕糸業構築のために

群馬県農政部蚕糸園芸課

絹主監 狩野 寿作

群馬県の蚕糸業は、地域経済の発展にとどまらず、和装文化の形成に大きな役割を果たしてきた産業ですが、近年は繭・生糸価格の低迷や養蚕従事者の高齢化等により、戦後最高収繭量を示した昭和43年の1/200にまで縮小してしまいました。

そこで、本県蚕糸業の維持・存続を図るため、蚕糸関係者、織物業者、流通業者、観光関係者、世界遺産推進関係者等12名を構成員とする「群馬県蚕糸業のあり方検討会」を設置し、5回の検討を行い、蚕糸業を産業として次世代に継承するためのあり方について取りまとめました。そのポイントについて、一問一答形式で紹介します。

### 1 蚕糸業存続の意義については、どのように考えていますか。

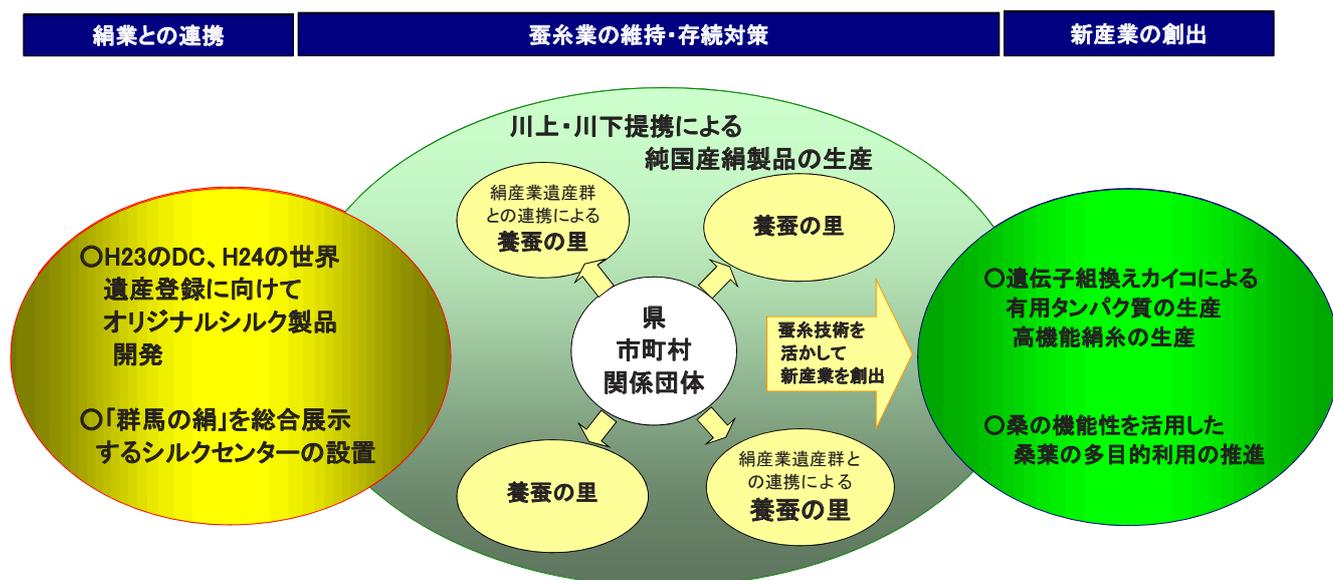
- (1) 県内には、養蚕を主業とする大規模養蚕農家（1t以上）が18戸あり、本県の特色ある地域農業の重要な作目として定着しています。
- (2) カイコの600種以上にも及ぶ豊富な遺伝資源と、人工孵化法、人工飼料、蚕品種育成などの研究蓄積は、日本が世界に誇れる財産です。この財産を活用することにより、遺伝子組換えカイコによる有用物質生産など新しい産業の創出が期待されます。
- (3) 本県は、遺伝子組換えカイコ研究や蚕種製造、人工飼料製造を担当する蚕糸技術センター、373戸の養蚕農家、5ヶ所の稚蚕共同飼育所、器械製糸工場など、一連の蚕糸技術を有する全国唯一の県です。人工飼料は群馬ほか12県に供給し、碓氷製糸は群馬ほか12都県から繭を収納するなど、群馬の蚕糸業の存続は、日本の蚕糸業や絹文化を守ることです。
- (4) 日本の染織は、高度な技術やその多様性から世界最高のテキスタイルです。それは蚕糸業が身近にあることにより、多様な素材を用いて発展してきたものです。つまり、蚕糸業の危機は、日本の絹文化の危機でもあります。
- (5) 世界遺産登録を目指す「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、日本の産業発展の歴史を伝える貴重な文化遺産です。この文化遺産の価値を高める上で、産業としての蚕糸業を

残すことが重要です。

(6) 観光振興にとって、豊かな自然景観とともに、地域文化や地場産業、産業遺産は重要です。本県の生きた蚕糸業と養蚕文化や絹産業遺産は、その中核を構成するものとして、観光面からも貴重な財産です。

## 2 今後の群馬県蚕糸業振興のイメージはどのようなものですか。

報告書全体イメージ図



## 3 川上・川下提携による純国産絹製品の生産（新蚕糸対策）については、今後どのように進めますか。

平成 21 年度群馬県における提携グループ数は 6 グループ、取り扱い繭量 43 トンで総繭生産量の 31% となっています。平成 23 年度までには全養蚕農家が提携グループに参加できるよう碓氷製糸農業協同組合をはじめ、大日本蚕糸会、農業団体等と連携し、積極的に事業推進します。

具体的には、流通小売業者を対象とした現場研修会の開催、養蚕農家研修会の開催、企業訪問による提携グループ作りを実施します。

## 4 絹業との連携による群馬オリジナルシルク製品開発が計画されていますが、どんな製品を開発し、どのように販売するのですか。

群馬県蚕糸業及び地域の活性化を図るためには、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録を見据えた「群馬の絹」のブランド化戦略を構築する必要があります。

そのためには、地域の特長を活かしたオリジナルシルク製品の開発、新たなネーミングの付与、デザイナーとの連携、販売戦略の強化などが必要ですが、平成 23 年 JR6 社によるデ

ステイネーションキャンペーン、平成 24 年以降の世界遺産登録に向け、市町村をはじめ関係機関、関係団体等と協力して「富岡製糸場と絹産業遺産群」関連のオリジナルシルク製品を開発します。

また、「群馬の絹」消費拡大のために、群馬の絹製品を一堂に展示し、見て、触れて、感じることでできる展示施設を整備し、展示会、商談会を開催するなど「群馬の絹」の消費拡大運動を積極的に展開します。

**5 桑、カイコ、繭、生糸の多様な機能を利用した「新産業の創出」を掲げていますが、具体的に教えてください。**

一点目は、遺伝子組換えカイコの実用化による新産業の創出です。

遺伝子組換えカイコは、平成 12 年（独）農業生物資源研究所によって作出され、民間企業を中心に基礎研究から実用化、産業化の段階に近づいています。遺伝子組換えカイコを使った有用物質生産は、①繭の価値が高まること。②全令人工飼料で年間飼育ができること。③更に群馬県は一連の蚕糸技術を有することなどから、養蚕所得向上のための新しいビジネスモデルを構築します。

具体的には、昨年 6 月から群馬県蚕糸技術センターと県内企業が「遺伝子組換えカイコを利用した有用物質生産技術の開発」について共同研究に取り組んでおり、その研究成果として、平成 22 年度下期には養蚕農家による遺伝子組換えカイコの実用飼育を開始する計画です。

遺伝子組換えカイコの研究と実用化のスケジュールは下図のとおりです。

遺伝子組換えカイコの研究と実用化スケジュール

遺伝子組換えカイコの研究と実用化スケジュール				
<b>有用物質生産</b>				
これまでの研究	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度以降
企業がGMカイコ開発	共同研究(GMカイコの実用品種育成)			
		GMカイコの実用化研究(大量飼育法上蒞法)		
実用化(蚕技センター施設)	カルタヘナ法申請	蚕種製造 実用飼育	蚕種製造 実用飼育	蚕種製造
実用化(稚蚕飼育所)			カルタヘナ法申請	実用飼育
<b>高機能絹糸生産</b>				
これまでの研究	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度以降
(独)農業生物研究所が「蛍光カラー品種」、「はくぎんGE」を開発	実用系統の品種育成(生物研)			
		GMカイコの実用化研究(飼育法、性状調査)		
実用化(蚕技センター)		カルタヘナ法申請	蚕種製造	蚕種製造
実用化(農家施設)		カルタヘナ法申請	実用飼育	実用飼育 カルタヘナ法第一種使用

二点目は、桑葉の他用途利用の推進です。

桑葉に含まれるDNJ(デトキシゲリマイシン)は、腸管から糖の吸収を抑制する働きがあることが解明され、機能性食品として糖尿病を予防する効果が期待されています。また、群馬県畜産試験場の研究成果では、桑葉粉末給与により鶏の腸内pHが低下し、良好な飼育成績となっており、今後新たな需要が見込まれています。

そこで、稚蚕人工飼料センターや遊休桑園を活用し、桑葉粉末の増産を積極的に進めます。

## 6 「養蚕の里」とはどんな構想ですか。

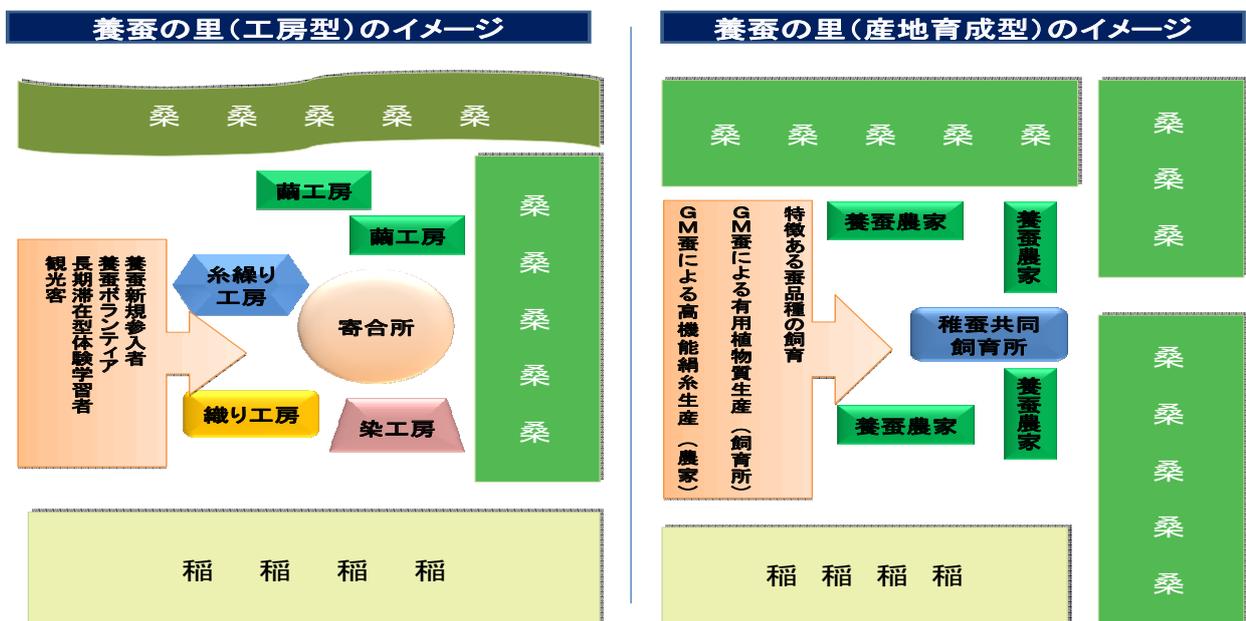
「富岡製糸場と絹産業遺産群」との連携により、養蚕を核とした地域の活性化を図るため、桑園の維持・造成により農村景観を保全し、養蚕、製糸、染め、織り等の見学や体験のできる地域を整備する構想です。

養蚕の里構想では、産地育成型と工房型の二つの形態を考えています。

産地育成型では、養蚕主業の農業経営確立のため、規模拡大、高品質繭生産、遺伝子組換えカイコの实用飼育に取り組む地域を育成します。

工房型では、蚕の飼育、糸繰り、染め、織り等見学や体験のできる地域を育成し、都市と農村の交流を推進します。

最後に、群馬県蚕糸業はまさに存亡の危機に直面していると思います。今頑張らなければ



頑張るときはありません。今頑張らなければ将来に禍根を残します。蚕糸業の維持・存続のために、群馬県蚕糸業活性化方針に基づき、養蚕農家、製糸業者をはじめ関係機関、関係団体とともに悔いのない活動を展開していきたいと思ひます。

## 世界遺産登録を目指す「富岡製糸場と絹産業遺産群」とは

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は下記の資産で構成され、世界遺産候補としてユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載されています。

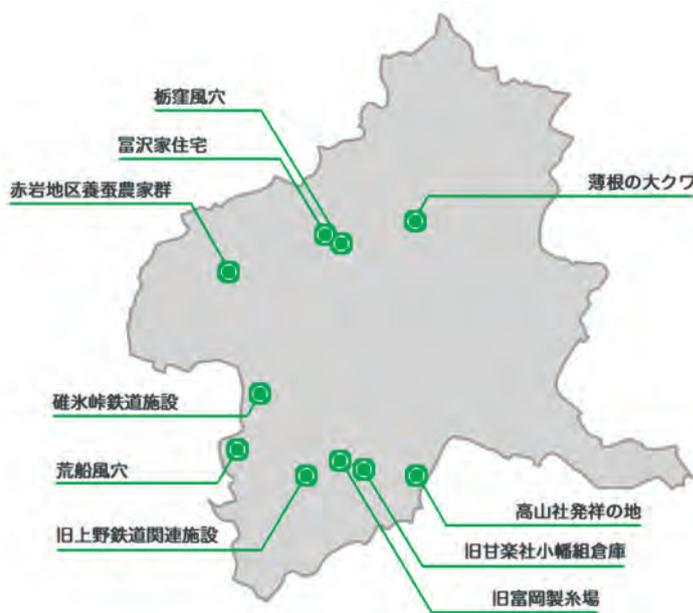


写真1 薄根の大クワ



写真2 荒船風穴



写真3 栃窪風穴



写真4 高山社発祥の地



写真5 富沢家住宅



写真6 赤岩地区養蚕農家群



写真7 旧甘楽社小幡組倉庫



写真8 旧富岡製糸場



写真9 碓氷峠鉄道施設

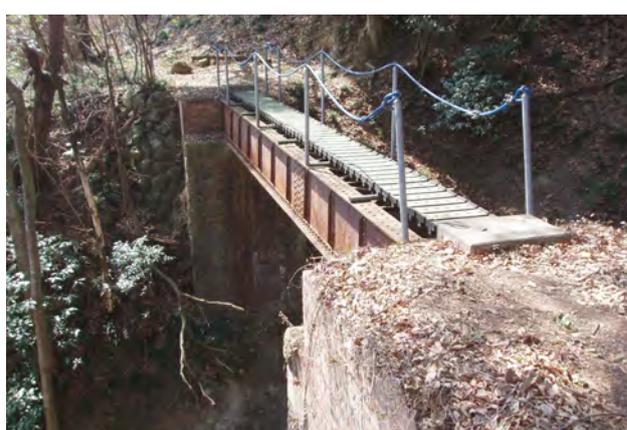


写真10 旧上野鉄道関連施設

---

かの じゅさく  
群馬県蚕糸園芸課 絹主監

## 中国の繭・生糸生産、増産体制へ

(商務部と農業部連名にて 2010 年度家蚕蚕種、家蚕繭及び家蚕生糸の生産指導計画を全国に通知)

中国商務部弁公庁と農業部弁公庁は先ごろ（本年 3 月 10 日付け）、各省、自治区、直轄市の商務主管部門（繭シルク調整事務局部門）と農業庁（委員会、局等の養蚕振興部門）に対して「2010 年度全国家蚕蚕種、家蚕繭及び家蚕生糸の生産指導計画」を通知した。その概要は以下のとおりである。

2009 年の家蚕蚕種掃立数量、家蚕繭生産数量、同生糸生産数量及びシルク商品輸出実績は、ともに減少したものの、家蚕繭品質は良好であったため農家の繭買上げ価格は、前年比で大幅に上昇し、農家の養蚕収入は非常に潤うものになった。統計によれば、全国の桑園面積は 1,197.38 万ムー（79.83 万 ha）で前年比 8.52% 減少、家蚕蚕種掃立数量 1,445.90 万枚で前年比 17.41% 減少、家蚕繭生産量は 57.53 万トンで前年比 15.82% 減少、農家の家蚕繭買上げ平均価格はキロ当たり 28.86 元（375 円）で前年比 30.15% の増加となり、家蚕生糸生産量は 9.25 万トン（154 万 2 千俵）で前年比 6.5% 減少、シルク商品輸出額は 28.86 億ドルで前年比 17.49% 減少であった。

2010 年の世界経済の回復状況は、依然、不確定要素が存在し、本年に入ってからシルク商品の輸出事情は、これまでと同様に低迷しているが、シルクの国内需要に関しては政府による内需拡大、消費促進政策のもとにあって、国内市場のシルク需要は確実に増大している。一方、2009 年度の家蚕繭生産状況は大幅な減産となり、関係企業の原料在庫は低水準であり、原料加工（製糸等）能力に余力があるため、2010 年度の原料繭・生糸需給は、上半期は確実に供給不足傾向にあり、下半期に至って漸く緩和するものと見込まれている。

中国シルク業界のマクロ的指導を強化し、繭・生糸需給バランスを確保し、業界を安定的に発展させ、農業、工業、貿易における利益を維持するため、関係部局の意見を通じ、2010 年度の全国家蚕繭及び家蚕生糸の生産規模は前年度より増加させることとし、（家蚕蚕種掃立数量 1,528.8 万枚、家蚕繭生産数量 60 万トン、家蚕生糸生産数量 9.5 万トン）ここに確定して公表する。（地区別内容は、資料 1～3 のとおりである。）

各地においては、この計画を参照し、現地実態を踏まえ、2010 年度の家蚕蚕種の掃き立て、

家蚕繭及び家蚕生糸の生産面の指導を適切に実施するものとする。

2009年度の全国の家蚕繭買上げ平均価格は、前年に比較して大幅に上昇しており2010年度の家蚕繭生産状況は回復し増産傾向にあり、各地においては、シルク市場の変化及び国内外のシルク消費需要を考慮するとともに、シルク産業・市場実態ネットワークをさらに充実させ、研究分析と情報管理を強化し、合理的に生産規模を決定するものとする。さらに速やかにカイコと桑の新品種の育成研究、科学的新技術の導入、農民への生産指導等適切な生産管理をもって、蚕種の品質を高め、蚕病の広域拡大を厳重に抑止するものとする。また、先進的企業が十分模範的企業活動を継続実施できる体制を構築し、適切な生産管理、科学的技術革新を伴う技術指導のもとにカイコ、繭及び桑資源の総合利用を図ることとし、養蚕農家の多元的経営増収工作を推進し、中国シルク業界の健全で持続的発展を確保するものとする。

(資料) 2010年3月10日付け中国商務部繭絲綢弁公室公表記事を翻訳

資料1  
2010年度全国地区別  
家蚕蚕種掃立指導計画表

単位：万枚

地区	2009年家蚕蚕種 生産実績	2010年家蚕蚕種 掃立指導計画
河北	2.00	2.10
山西	10.00	11.00
江蘇	175.20	180.00
浙江	129.20	135.00
安徽	53.00	56.00
江西	15.30	18.00
山東	63.00	80.00
河南	25.10	28.00
湖北	29.00	32.00
湖南	3.80	4.50
広東	79.20	83.00
広西	458.60	470.00
重慶	49.70	57.00
四川	200.00	210.00
貴州	3.70	4.00
雲南	95.00	99.00
陝西	49.20	54.00
甘肅	0.90	1.00
寧夏	2.00	2.10
新疆	2.00	2.10
全国合計	1,445.90	1,528.80

資料2  
2010年度全国地区別  
家蚕繭生産指導計画表

単位：トン

地区	2009年 生産実績	2010年 生産指導計画
河北	1,200.00	1,500.00
山西	4,046.08	4,500.00
江蘇	73,175.00	75,000.00
浙江	45,600.00	47,000.00
安徽	24,800.00	26,000.00
江西	7,602.44	8,000.00
山東	23,900.00	26,500.00
河南	10,101.00	11,000.00
湖北	17,150.00	19,000.00
湖南	3,182.00	3,500.00
広東	53,321.05	55,000.00
広西	172,900.00	179,000.00
重慶	17,311.00	18,000.00
四川	70,000.00	72,000.00
貴州	2,750.85	2,900.00
雲南	30,230.27	32,000.00
陝西	17,200.00	18,000.00
甘肅	253.00	350.00
寧夏	126.00	150.00
新疆	450.00	600.00
全国合計	575,298.69	600,000.00

資料3  
2010年度全国地区別  
家蚕生糸生産指導計画表

単位：トン

地区	2009年 生産実績	2010年 生産指導計画
河北	266	270
山西	66	70
江蘇	17,800	18,000
浙江	15,000	15,200
安徽	5,200	5,400
江西	2,900	3,000
山東	5,800	6,000
河南	2,100	2,200
湖北	555	580
湖南	104	110
広東	1,722	1,800
広西	16,237	16,800
重慶	4,200	4,400
四川	14,900	15,400
貴州	2,237	2,300
雲南	3,263	3,360
陝西	105	110
甘肅	0	0
寧夏	0	0
新疆	0	0
全国合計	92,455	95,000

## 国内産地情報

### 絹織物産地の概況（1月）

#### 主要産地の生産量は増加傾向で健闘している

##### <原糸>

中国生糸の減産は前年比7%程度と伝えられ、この程度の値上がりで済んでいるのはインド以外への輸出の大幅減少の為と思われる。しかし、中国における人件費の高騰、元の切り下げ、早魃による春繭の減産等から、先行き強含みの展開が予想される。

##### <白生地>

- ・ 丹後の縮緬生産は、前年比100%、無地122%紋生地は95%と不況の中にあって健闘している。
- ・ 長浜の生産は前年比117%と3ヵ月引き続き増産となっている。
- ・ 五泉の生産量は、前年同月比15%の増産となり、反数換算でも同様の増産であった。
- ・ 福島は、受注の減少で、生産量、操業度共に落ちている。
- ・ 石川は、小口商いにつき減産が続いている。
- ・ 福井は、広幅羽二重は指定品のみ受注生産、小幅羽二重は市況の悪化で在庫が溜まりぎみである。
- ・ 群馬・埼玉は、催事関係も企画され商品の引合いもあったが、デフレ下では量が少なく定番物よりも廉価品の引合いが多く、良い結果とはならなかった。

##### <先染織物>

- ・ 西陣の帯は、相変わらず市況悪を反映して全体的に低調で引続き減産が続いている。しかし、在庫増にはなっていない。
- ・ 博多は、平地の小袋及び男帯を除き全般的に低調である。
- ・ 十日町は、大幅にダウンしている品種が目立ち、特に付下げや留袖は3割を割っている。
- ・ 山梨は、好調であった洋服地も前年比3割ほどの生産で百貨店などの売上げの減少がそのまま響いている。今後も期待薄である。ネクタイは一部に多少の動きがあるが、全体的に売行きが悪い状況が続いている。
- ・ 米沢は、呉服の生産が厳しく減産が多くなっている。3月が決算時期から在庫整理の動きが強い内地服地は若干受注品中心の動きであり低調。輸出服地は若干増加に動いている。
- ・ 西陣のネクタイは、端境期となり、秋冬物のサンプル取りと一部現物及び夏物の生産となっているが、受注量が少ない。

\*（社）日本生糸問屋協会月報 22.4.13 第733号による。

---

---

## 海外シルク情報

### 中国

#### 中国“シルク布団”の国家品質基準の適用実施へ

中国におけるシルク布団は、伝統的に高級寝具用品であり、最近では健康志向の高まりもあって、その特長、軽くて薄く保温性が高くかつ吸湿・放湿性が良いことから、特に所得中間層や富裕層による購買対象になっている商品である。

最大の業界団体である中国シルク協会の統計によれば、現在、全国各地のシルク布団生産企業は 1,000 社近くあり、その 70%以上は浙江省、江蘇省及び四川省に集中している。最近のシルク布団の年間販売額は、500 万枚を超えて年間総販売額は 20 億元以上となっている。過去 3 年間、シルク布団の生産量は年率 20%以上の伸び率で増加してきており、中国繊維産業の中で特筆に値する成長分野となっている。

しかし、中国国内市場では、シルク布団は多種多様なものが出回っている。布団製品の組成でみると、100%柞蚕糸、100%家蚕生糸、100%絹糸、30%絹糸＋70%牛乳繊維、20%絹糸＋80%短繊維などなどで、この中の絹糸にあっても低級くず糸使いのものもある。また、販売価格では、一枚当たり 100 元から高いもので 2～3 万元のものがある。

このように種々雑多な絹組成布団であっても、製品表示はすべて「シルク布団」として販売されているのが実態の様子である。

従って、シルク需要にとって有望な消費分野での購買者・消費者の品質上の混乱を防止するため、中国ではシルク布団単品に関する国家品質基準（規則）を定め、本年 2 月 1 日より施行している。

これによれば、「シルク布団」とは“なか綿”に家蚕及び野蚕の絹を 50%以上使用したものと定義し、たとえば 10%絹使用布団は、シルク布団として表示することはできないことになった。既報のとおり昨年 9 月に中国シルク協会の下部組織にシルク布団部会が成立しており、これが中心となって全国の各省（市）の関係組織と連携し、今回の国家品質基準に基づいた適切なシルク布団業界の指導に乗り出している。

#### 2009 年度中国シルク輸出概況

最新中国海関（税関）統計によれば、昨年度 1～12 月・年間の純シルク商品輸出状況は、総輸出金額 28.86 億ドルで対前年比 18%減少であり、引き続き低迷している。

---

---

主要品目別の輸出状況は、次のとおりである。

- ①生糸など蚕糸原料類：輸出額 5.22 億ドルで対前年比 17%の減少
- ②絹織物：輸出額 7.85 億ドルで対前年比 5%の減少
- ③シルク製品：輸出額 15.79 億ドルで対前年比 23%の減少

対主要輸出市場別にみると、寒空に一筋の光明が射すようにインドとパキスタン向けはそれぞれ対前年比 10%、52%と増加し、特に新興市場であるパキスタン向けは前年の輸出順位 11 位から第 6 位に躍進している。これら以外の主要市場は軒並み大幅に減少しており、中でも香港向けは最も減少幅が大きく、対前年比 35%も減少した。

ちなみに輸出金額順に見ると、①アメリカ、②インド、③イタリア、④日本、⑤香港、⑥パキスタン、⑦イギリス、⑧ドイツ、⑨韓国、⑩フランスとなり、トップのアメリカ向けは全輸出額の 22.4% を占めている。

中国の主要輸出産地別にみると、金額の多い順に①浙江、②江蘇、③広東、④上海、⑤四川、⑥山東となり、この 6 産地の総輸出額は全輸出額の 90.7% に相当している。トップ産地の浙江省の輸出額は約 20 億ドルで全体の 41.5% を占めている。主要産地の中で、対前年比の減少幅の最も大きかったのは江蘇省で 24.3% も減少し、この点、最も減少幅が少なかったのは四川省でその減少幅は 0.4% となっている。

このように輸出が低迷した主な原因は、世界的な金融危機によりシルク需要が委縮したことと国内繭・生糸価格が継続的に上昇したことにある。参考までに、最近の日本向けの 21 デニール生糸 (5 A、6 A) の輸出価格は 38 ドル台で高止まりしているところである。

\* 日本生糸問屋協会月報 22.3.16 第 732 号及び 22.4.1 3 第 733 号による

## 開港当初ごろの生糸輸出抑制策と生糸取引

### シルク博物館

元部長 小 泉 勝 夫

#### 1 国内の生糸価格高騰と原料不足が招いた織物産地の死活問題

横浜を開港すると、外商が高額な価格で、わが国の生糸を買いあさったため、国内用の生糸は高値の輸出用生糸に振向けられ、西陣・桐生・八王子・秩父・郡内・福島・藤岡・足利など国内の機業地帯は、生糸の高騰と原料不足を招き、開店休業の事態に陥ってしまいました。

桐生の生糸相場を第3表に示しましたが、開港して1か月たった7月には、平年の2倍前後の価格に高騰してしまいました。

第3表 1両で購入できる生糸量

生糸の質	平 年	1859 (安政6) 年7月
上 物	170 匁 (637.5 g)	80 匁 (300 g)
中 物	190 (712.5)	110 (412.5)
下 物	250 (937.5)	130 (487.5)

岡部福蔵著「桐生地方史」上巻より作表

この生糸の高騰によって窮地に陥った桐生の機業界の当時の概況を、次に紹介しましょう。

1859 (安政6) 年7月、「上州桐生領村々 (桐生領 54 か村とその続きの村々一同) 織屋共」として、勘定奉行・大目付

に「乍恐以書付国害之儀存内密奉愁訴候」(恐れながら書付をもって国害の儀、内密に存じ愁訴奉り候)の書状を提出し、生糸価格暴騰を抑えるため、外国人に生糸を売り渡さないよう生糸商人どもに仰せ付けてほしいという窮状を訴えました。

この愁訴(苦しみや悲しみを嘆き訴えること)後も、状況は悪くなるばかりで改善されないため、村々の総代などによって愁訴が続けられました。

こうした村人たちの切実な願いとは裏腹に、ますます状況は悪化していったため、ついに安政6年11月9日、桐生領35か村総代の古木四郎兵衛と津久井儀右衛門が死を決して大老井伊直弼、老中間部詮勝に駕籠訴(幕府の大官や大名の駕籠を待ち受けて直訴すること)を行いました。

このように、開港当初は、桐生をはじめ全国各地の織物地帯が、同様の窮地に迫られていました。

結局、開港によって年々地域の生糸価格は高騰し、諸物価の値上がりを招くことになってしまいました。

#### 2 五品江戸廻し令の布告と江戸の特権的流通機構の崩壊

---

---

幕府は3都（京都・大阪・江戸）の特権商人である問屋層を通して国内の商品経済を把握する政策をとっていました。

ところが、開港によって貿易がはじまると、輸出品の生産が追いつかないため、在郷の商人たちは、特権商人である江戸の問屋層を通さずに、横浜へ直送するようになり、特権的流通機構は崩れ、物価は高騰してゆきました。

物資が江戸を通らなくなると、江戸の商業は少なからず大きな影響を受けるようになり、江戸の商人たちは幕府に物資流通の改善を嘆願しました。

幕府にとっても、自ら好んで対外貿易の道を開いたわけではなく、外国の圧力に屈して開国・開港したまでのことで、国際貿易の経験に乏しく、国内からの物資の急激な流出に憂慮していましたので、物価統制を理由に輸出規制をすることにし、1860（万延元）年閏3月「五品江戸廻し令」を布告、雑穀・水油・蠟・呉服・糸（生糸をさす）を産地から横浜へ直売することを禁止しました。

特に、生糸については、江戸糸問屋と横浜貿易商人共同の出店を設け、生糸の搬入管理をし、江戸問屋の送り状のないものは摘発することにし、横浜貿易商人は江戸問屋に改め料を支払い、江戸問屋は幕府に運上（現在の関税のこと）を納めるという構想でした。

ところが、横浜貿易商人は江戸問屋による流通を嫌い、神奈川奉行を後ろ盾に糸問屋の横浜出店、売渡し口銭（売買の仲介をした手数料のこと）支払いを、強行に反対しました。

神奈川奉行も、この輸出規制に対する外国商人からの抗議を恐れ、しかも江戸町奉行の配下にある江戸問屋が、神奈川奉行の管轄地に入り込むことを嫌ったため、当初の構想は実現することができませんでした。

従って、横浜送りの生糸は、当初目的とした数量や価格などの規制はできず、江戸問屋が名目的な買主となり、改所費用<sup>あらためしよ</sup>1分5厘程度を徴収して、江戸改所から横浜に流すという規制にとどまってしまいました。

### 3 横浜鎖港問題

幕府は1863（文久3）年になると、朝廷から横浜鎖港を命じられたため、外国代表と話し合いをしました。しかし、外国の強い反対で固く拒まれてしまいました。

そこで、幕府は朝廷の意向に添うようにするため、生糸の輸出規制を強めようとなりました。ところが、これも外国側の強い反対で実現させることはできませんでした。

このような朝廷と幕府のやり取りをみると、朝廷の権力が増し、幕府の権限が弱くなってきていることがわかります。

また、丁度このころ、攘夷派の浪人が頻繁に脅迫事件を起こし、世間を騒がせていました。

### 4 五品江戸廻し令の撤廃

浪人たちによって天誅<sup>てんちゆう</sup>を加えると脅迫された商人たちは、横浜から離れるものが多くなっていきました。糸問屋も例外ではありません。同様に脅迫されたため、江戸町奉行に生糸改めの返上を申し入れました

が、この時は認めてもらうことができませんでした。

ところが、この間に糸問屋仲間が殺害されるという事件が発生し、とうとう問屋一同は、生糸改めを返上してしまいました。

幕府は、このような攘夷派の浪人たちによる脅迫事件とは別に、1863（文久3）年、長州藩による下関海峡通過の外国船砲撃事件の報復としての四国艦隊下関砲撃事件、1864（元治元）年の生麦事件（写真13は「生麦事件の碑」）の報復としての薩英戦争などが起こり、これら諸国に対する対応に苦慮していました。このような度重なる事件によって外圧はますます高まり、朝廷から命じられていた横浜鎖港問題は一蹴されてしまいました。

このような事件による外圧は、輸出規制をめざした五品江戸廻し令にも、大きく影響するようになりました。



（写真13）明治16年建立の「生麦事件の碑」  
建立場所：横浜市鶴見区生麦1丁目16

とうとう外圧に押され、1864（元治元）<sup>げんじがん</sup>年9月、江戸町奉行は、糸問屋たちを集め、輸出生糸の買取制の廃止を命じました。このことは輸出規制を解いたこととなりますので「江戸問屋買取制度」の廃止によって、五品江戸廻し令は、5年目にして無力化されてしまい、事実上の廃止を意味することになってしまいました。

また、今まで江戸問屋に行かせていた「江戸問屋買取制度」の廃止は、江戸問屋と結んで打ち立てた幕府の貿易規制体制の崩壊を意味するものでもありました。

そもそも生糸や蚕種等の規制については、幕府内でも意見が異なっており、外国奉行や神奈川奉行は、江戸問屋で行うのではなく、各生産地での実施を主張しておりました。

幕府は結局、このような意見を聞き入れ、1866（慶応2）年5月から「生糸蚕種改印令」を実施し、各産地で品質検査や課税を行うことにし、江戸問屋による検査を廃止してしまいました。

この「生糸蚕種改印令」の実施により、1860（万延元）年から始まった五品江戸廻し令は、7年目にして名実共に廃止となってしまいました。

## 5 横暴な外商の取引

横浜を開港すると、各地から一攫千金<sup>いつかくせんきん</sup>を夢見て出てきた商人が、たくさんおりました。この中で、輸出商（輸出品を扱う商人）を「売込商」<sup>うりこみしょう</sup>、輸入商（輸入品を扱う商人）を「引取商」<sup>ひきとりしょう</sup>といたしました。

これらの日本人商人は、外国との商いの<sup>あきな</sup>習慣など全く知らず、言葉の通じない中で、

---

---

外国商人（以下、外商という）との取引を始めました。

外商も日本語が全く分からないので、複雑な話になると、漢字など読み書きのできる中国人を通弁（通訳）として取引を行いました。心情が通じない相手なので、ごまかさねはしないかと疑心暗鬼で取引を行っておりました。

しかし、外商は資金力があり取引馴れしているのです。常に有利な取引が行われ、日本人商人は、しばしば泣き寝入りをさせられることがありました。

この1事例として、次の生糸取引を紹介します。

甲府緑町の藤井屋弥助らが、開港した1859（安政6）年8月に、田口太七に依頼して、生糸3,000斤（30俵）を外商に売ってもらうことにしました。

田口は早速外商バルベルと売買の約束を行いました。

ところが、地方生糸の価格が暴騰し、約束の量を期限内に調達することはできませんでした。僅かに甲州島田糸250斤と信州諏訪の粗雑な鉄砲造り糸300斤、合計550斤（現在の生糸5.5俵分）でした。

田口は、この550斤の生糸を持って、バルベルに承諾を得ようとしていました。ところが、バルベルは約束が違うとして大変怒り、しかも鉄砲造り糸は、見本とは異なるとして、代金を支払わず生糸すべてを取り上げてしまいました。

田口は束装こそ違いますが、生糸に変わりはないとして交渉しましたが、聞き入れてもらうことができませんでした。

やむなく運上所に訴え出ましたが、敗訴

となり550斤すべてをバルベルに取り上げられ大損をしてしまいました。

バルベルは開港当初の大きな生糸売込商芝屋清五郎（横浜出身）や甲州屋忠右衛門（甲州出身）などの取引でも大きな損害を与えた人物です。

このような強奪的な取引は、バルベル1人に限らず、他の外商によっても行われていましたが、ほとんどは売込商の泣き寝入りとなってしまいました。

居留地内で行う通常の生糸取引は、売込商が外商のところに売買交渉に行くと、見本を持ってこさせ「拝見」という品質検査を行います。

拝見の結果、数量、価格、納期などを口頭で契約をします。

期限内に契約量全量の生糸を外商の倉庫に搬入し<sup>かんかん</sup>看質という秤量検査を受け、パスすると代金が支払われました。

このような取引が行われたので、一見問題はなさそうに見えますが、外国の市況が悪い場合などは、搬入から秤量検査までの期間を延長し、いっこうに取引をしようとはしませんでした。

また、自分たちの都合や状況によっては、見本と搬入生糸を見比べて難癖をつけ、買い叩きや取引拒否を行いました。この取引拒否のことを「ペケ」といいましたので、ペケという言葉は横浜から広まった言葉といわれています。

生糸秤量検査では、風袋重を重いようにして生糸の過小秤量をするなど、悪質な手口で取引を行う外商がおり、生糸売込商の泣き寝入りになってしまいました。

このように、この時代は、外国の商人の



図3 「皇国養蚕図会 繭糸外国輸出の図」  
1885（明治18）年刊 小林幾英画（横浜開港資料館所蔵）

一方的な取引が多く行われていました。

## 6 外商の一方的取引に対抗した

### 「連合生糸荷預所」組織

横浜開港以来、生糸売込商と外商との間には、生糸取引で大きな軋轢あつれきが生じていました。この原因は前述したような外商の横暴といえる一方的な取引でした。

このような外商の不合理な取引を解決し、対等に売買のできる日本側の商権を獲得するため、1881（明治14）年8月「連合生糸荷預所」を創立しました。

頭取に渋沢喜作が、取締役に原善三郎、茂木惣兵衛、朝吹英二、馬越恭平が就任し、同年9月15日、横浜本町6丁目84番地において開業をしました。

39条にわたる連合生糸荷預所定款を定め、第4表に示した27名の株主をもって発足しました。

開業2日前には、頭取渋沢喜作と取締役4名をもって外商側（会長ウイルキン）に連合生糸荷預所を設立する旨の通知をして協力を求めました。

第4表 連合生糸荷預所株主と持株

株主名	株数	株主名	株数
原 善三郎	7	雨宮 啓次郎	2
茂木 惣兵衛	7	田部井 芳兵衛	1
平 沼 専蔵	7	高橋 萬右衛門	1
渋沢 作太郎	5	川喜田 久太夫	1
馬 越 恭平	5	子 安 峻	1
若尾 幾造	5	鈴木 宇右衛門	1
川添 源次郎	5	萩野 賢太郎	1
朝 吹 英二	5	新島 金兵衛	1
中里 忠兵衛	4	山田 駒吉	1
田 中 平八	3	飯島 勇造	1
堀越 久三郎	3	笠原 恵	1
上原四郎左衛門	2	青木 角造	1
高木 三郎	2	中村 碌郎	1
渡邊 福三郎	2	計27名	76

出典 藤本實也著「開港と生糸貿易」下巻から作表  
(注) 1株1,000円

---

---

これに対して、外商側の代表であるウイルキン会長（バビエル商会）外 36 商会からは、横暴な連合生糸荷預所の行為だととして、一切取引を行わないという回答をしてきました。

予期しない回答に驚いた連合生糸荷預所側は、再度外商側に内容を理解の上、協力するように要請しました。

承服できない外商側は、日本国内の地方荷主に対して、連合生糸荷預所はギルドで、2、3の商人が特別な利益を得る組織である。一般の商人の妨害になる組織なので、直接外国商館に出荷をして荷預所を立ち往生させるよう誘導の通知文を出し対抗をはじめました。

これに対して連合生糸荷預所も、国内の地方荷主や製糸業者に、今までの外商の一方的な悪徳商法を伝え、自分たちの商権回復を訴える檄文（相手の罪悪をあげ、自分たちの主張を大衆に告げる文書）を出し、荷預所への協力を求めました。

このようにして、日本商人と外商は対立したまま生糸取引は停止し、両者が攻撃、

反駁<sup>はんぱく</sup>を繰り返し、泥沼にはまった闘争へと進展していきました。

国内の業者は荷預所の闘争に賛同し協力しましたが、この間、中には違反者が現れ、足並みが乱れ亀裂を生じることも起こりました。

時の米国公使は、この紛糾事態を大いに憂い、同年 11 月 2 日、渋沢栄一・益田孝、外商のウイルキンとウォルシを招き会食をしながら和解に向けた示談をすすめました。

この結果、渋沢と益田は、この闘争の解決策として共同倉庫を設立するという提案をし、ウイルキンらの同意を得ることができ、取引停止から 2 か月後、ようやく和解をすることができました。

この闘争の結末は、日本側の勝利にはならず、単に取引活動を停止していたに過ぎませんでした。

しかし、日本側にとって、外商が開港以来要求していた産地直接取引だけは、阻止することができたことが、せめてもの救いだったといえましょう。

---

こいずみ かつお  
シルク博物館 元部長

# イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
華やかな婚礼衣装展	<p>日本の伝統文化を伝える着物。本展では、婚礼衣装をテーマに取り上げ、江戸から明治、大正、昭和時代にかけての華やかな婚礼衣装を日本きもの文化美術館の所蔵品より紹介します。</p> <p>打掛や振袖、婚礼衣装の小物(櫛やかんざし、化粧箱)などを展示します。</p> <p>観覧料: 一般400円(320円)、大高生250円(200円) ( )内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料</p>	<p>平成22年4月17日(土)～ 5月24日(月)</p> <p>AM9:30～PM5:00 (火曜日休館)</p>	<p>会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 <a href="http://www.nipon-kinuno.sato.or.jp">http://www.nipon-kinuno.sato.or.jp</a></p>
ヨーロッパ・モード ー18世紀から現代までー	<p>18世紀のロココ時代から1970年代までのヨーロッパの女性モードに焦点を当て、200年の変遷をたどります。モードは、それが生み出されたそれぞれの時代の政治、経済、産業、文化、科学技術などと深いつながりを持つことから、目に見えるモードの変遷にとどまらず、その背景も紹介します。また、現代衣服の源流ともいべき1920年のモードを特集し、当時の社会状況やアール・デコなどの美術様式との関連についても触れていきます。</p> <p>入館料: 一般500円(400円)、大高生300円(200円) 小中学生200円(100円) ( )内は20名以上の団体料金、障害者とその付添者1名は無料</p>	<p>平成22年4月14日(水)～ 6月12日(土)</p> <p>AM10:00～PM4:30 (5月14日はPM7:00まで開館) 休館日:日曜日、祝日ただし 5月16日は開館</p>	<p>会場・主催・お問い合わせ 文化学院服飾博物館 〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル JR・京王線・小田急新宿駅(南口) より徒歩7分 Tel:03-3299-2387</p>
ーシルクロード浪漫ー ペルシャシルク絨毯の世界	<p>本展では豪華なアンティークのペルシャ絨毯から現代活躍中の新進デザイナーの作品などあわせて絹製のペルシャ絨毯を約100点一堂に展示紹介します。また会期中に絨毯織り実演、講演会を開催します。</p> <p>入館料: 一般700円(600円)、大高生200円(150円)、 65才以上300円(200円)小・中学生100円(50円) ( )内は、団体割引(20人以上)の料金</p>	<p>平成22年4月24日(土)～ 5月23日(月)</p> <p>AM9:00～PM4:30 (4月26日、5月10日、5月17日 休館)</p>	<p>会場・主催・お問い合わせ シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町 1番地(シルクセンター2F) (みなとみらい線 日本大通り 駅下車3番出口)</p> <p>Tel:045-641-0841 <a href="http://www.silkmuseum.or.jp/">http://www.silkmuseum.or.jp/</a></p>
まゆクラフト作品展	<p>カイコが恵んでくれた自然の贈り物「まゆ」、そのまゆの素材を活かし、そこからさらに美しい光沢・色彩を出し、まゆの神秘的な造形美を巧みにとらえ、自らのテーマに沿って、身近な野に咲く花木、まゆ人形、ブーケ等、個性的で夢に満ち溢れた作品60点を展示します。</p> <p>入館料: 大人300円(200円)、小中学生100円(50円) ( )内は、団体割引(20人以上)の料金</p>	<p>作品展開催期間 平成22年4月26日(月)～6月 20日(日)まで</p> <p>AM9:00～PM5:00 (水曜日休館)</p>	<p>会場・主催・お問い合わせ 駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那482 Tel:0265-82-8381 Fax:0265-82-8380</p> <p>後援: 中央蚕糸協会、(財)大日本蚕糸会、(社)日本絹業協会、(社)日本生糸問屋協会、全国農業協同組合連合会</p>

# 登録コーディネーター一覧

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧（五十音順）

平成 22 年 4 月 15 日現在

登録番号	氏名	所属・役職名
21-026	青山 繁	株式会社二葉きもの営業部
21-021	秋山 徹	
20-067	秋山 眞和	(株)あきやま綾の手紬染織工房主宰
20-052	旭 利彦	ロード・ニジュウイチ株式会社
20-013	阿部 末男	岩手県養蚕活性化推進協議会代表
20-036	阿部 雅一	株式会社マルシバ
21-003	天野 三吉	富士吉田織物協同組合開発部長
21-015	新井 園恵	新啓織物
21-014	新井 教央	新啓織物
21-011	碓山 俊光	西陣織工業組合専務理事
20-006	石田 克己	二十一世紀の絹を考える会世話人代表
20-019	伊藤 公一	株式会社伊と幸代表取締役社長
19-014	今村 幸文	碓氷製糸農業協同組合製造部長
20-059	宇野 浩嗣	京丹後市商工観光部丹後の魅力総合振興課主任
21-029	内海 康治	有限会社内海呉服店きもの千歳屋代表取締役
20-041	梅田 幸平	有限会社幸和代表取締役
21-023	江口 純一郎	日本刺繍紅会養蚕・繰糸担当
19-010	遠田 寿之	松岡株式会社監査役
20-048	大野 章	勝山織物株式会社
20-063	大竹 史朗	有限会社大竹商店代表取締役
21-001	岡田 心平	株式会社あきやま常務取締役
22-001	奥澤 武治	奥順株式会社専務取締役
21-007	小倉 進吾	株式会社小倉商店
20-044	小此木 エツ子	多摩シルクライフ21研究会代表
21-005	小山田 勉	株式会社オヤマダ代表取締役社長
20-037	角谷 美和子	ハクビ京都きもの学院学院長
21-004	柏木 幹弘	有限会社カシワギ代表取締役社長
20-035	片山 政明	山形県養蚕産地推進員
20-049	勝山 健史	勝山織物株式会社専務取締役
20-064	加藤 洋次	株式会社加藤技術士事務所所長
19-021	門倉 重行	門倉メリヤス株式会社代表取締役
20-030	金井 史郎	東北撚糸株式会社代表取締役社長
20-025	亀井 修一	株式会社伊と幸営業部
19-022	川瀬 久弥	樋口株式会社工場長
20-043	河田 芳宏	河芳織物有限会社代表取締役
20-020	北川 幸	株式会社伊と幸取締役社長室長
20-032	北丸 豊	豊栄繊維株式会社代表取締役社長
19-019	木下 幸太郎	株式会社マルシバ代表取締役社長
21-020	木村 正一	山形県先進国型養蚕推進協議会事務局長

（注）標記名簿は公表を了承された方のみ掲載しております。

登録番号	氏名	所属・役職名
20-009	草間 健一	株式会社草間商会代表取締役
20-066	黒田 秀樹	株式会社伊と幸和装部次長
19-013	小坂橋 広行	碓氷製糸農業協同組合参事
20-061	小口 和興	株式会社帛撰代表取締役
21-002	小林 嘉朗	有限会社コバヤシ代表取締役
20-002	薦田 智昌	ロード・ニジュウイチ株式会社代表取締役
20-012	昆野 和夫	前いわい東農業協同組合養蚕農家指導担当
20-045	境 京子	多摩シルクライフ21研究会
21-025	酒井 進	有限会社酒井代表取締役
20-074	佐々木 祥一	株式会社川島織物セルコン
20-001	笹口 晴美	有限会社ミラノリブ代表取締役
19-012	佐藤 信行	松岡株式会社常務取締役
20-004	佐藤 幸香	「香染」工房主宰
19-011	渋谷 健治	松岡株式会社シルク事業部課長
20-040	清水 武彦	(有) シンセイ (信州繭ブランド織物振興会会長)
19-008	代田 丈志	(財) 大日本蚕糸会蚕業技術研究所上席研究員
21-030	関根 實	有限会社関根商店代表取締役
20-018	都木 裕一郎	ニッケン通商株式会社生糸販売担当責任者
19-017	高橋 耕一	株式会社宮坂製糸所専務取締役
20-075	高橋 弘直	大門屋店主
20-071	竹下 和利	有限会社寿光織本舗取締役社長
20-076	田中 隆	田中種株式会社代表取締役
20-065	田中 裕司	株式会社布四季庵ヨネオリ代表取締役
20-014	俵 武司	株式会社千總友仙工場代表取締役
21-010	知識 勝博	宮崎県中部農林振興局営農相談員
20-005	土井 芳文	絹小沢株式会社業務推進役
21-008	道明 三保子	文化女子大学文化ファッション研究機構客員研究員
20-077	堂本 正	田中種株式会社営業部長
21-017	土肥 光四郎	株式会社トキワ商事代表取締役会長
21-012	富田 篤	株式会社富田染工芸代表取締役
20-053	内藤 吉雄	元艶金興業株式会社
20-058	永岩 則子	長崎絹業探究所所長
20-060	中尾 浩祥	株式会社丸万中尾取締役
21-006	中澤 豊	株式会社山桜代表取締役社長
20-072	中島 洋一	玉川大学非常勤講師
21-027	長島 誠	長島繊維株式会社
20-057	中野 豊	長崎絹業探究所製作担当
20-031	中谷 比佐子	株式会社秋櫻舎代表取締役社長
20-016	西尾 仁志	有限会社西尾呉服店代表取締役
21-022	似内 久俊	

登録番号	氏名	所属・役職名
20-024	野中 康雄	株式会社伊と幸和装部次長
19-015	萩原 和憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
19-018	服部 芳和	有限会社織道楽塩野屋代表
20-056	林 太一	昭和撚糸工業株式会社
20-038	原田 晶三	アンファンテリブル代表
20-015	原田 尹文	有限会社ハラダ代表取締役
20-027	東 宣江	群馬県蚕糸館主宰
20-008	兵頭 眞通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-007	深田 祥二	株式会社深田商店専務取締役
20-039	福田 隆	株式会社龍工房代表取締役
20-050	福地 圭一	丸八生糸株式会社
19-023	福永 吉穂	江一株式会社原糸事業部長
20-046	藤井 浩一	藤井絞株式会社取締役部長
20-069	藤井 美登利	川越むかし工房代表
21-028	藤本 昌孝	ミロス株式会社代表取締役
20-011	星野 伸男	新增澤工業株式会社代表取締役
20-055	堀内 新也	農業、地域（繭）マイスター
20-051	舞鶴 一雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
21-013	眞浦 正徳	山梨県中小企業団体中央会応援コーディネーター
21-019	前田 市郎	株式会社前田源商店取締役
20-054	前田 勝臣	株式会社日本クリエイティブセンター代表取締役
20-010	前田 進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
20-047	松井 慎一郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
20-028	松澤 清典	松澤製糸所
20-033	松本 信孝	有限会社ハック代表取締役
19-016	宮坂 照彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
20-026	宮沢 巳起代	有限会社塩野屋東京事務所スタッフ
20-022	宮 忠光	株式会社伊と幸取締役副部長
20-021	本橋 伸夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
20-070	藪内 猛之	株式会社ヤブウチ代表取締役
20-078	藪垣 茂仁	田中種株式会社仕入担当
20-068	山口 治之	丹波生糸株式会社代表取締役
21-018	山崎 泰洋	山崎織物株式会社代表取締役
20-017	山根 敏男	松村株式会社繊維原料部部門長
20-062	吉川 幸四郎	有限会社吉川商事代表取締役
20-073	渡邊 健次	渡文株式会社代表取締役専務
20-029	渡邊 英夫	橋本レース株式会社

# 純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 22 年 4 月 13 日現在

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染織物（訪問着・付下・色無地、振袖）、胴裏地
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、先染帯
3	有限会社 ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカーフ、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
4	株式会社 丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）
5	株式会社 坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏絹（灰汁浸け加工）
6	有限会社 平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社 信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社 きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社 上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社 銀座もとじ	白生地、後染反物、大島紬、結城紬、染織作家製品、八掛、御召
12	河瀬満織物 株式会社	先染帯
13	有限会社 織匠小平	先染帯
14	門倉メリヤス 株式会社	洋装品（紳士靴下、ジャケット、セーター、カーディガン、パンツ、スカート、帽子）
15	株式会社 結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	株式会社 絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社 琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	胴裏、長襦袢地、白生地、八掛、比翼地、後染反物（作家もの、黒紋付）
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21世紀の絹を考える会	帯（草木染袋帯、唐織袋帯、先染袋帯）、後染反物（色無地、訪問着）
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠 万勝	帯地、先染着尺、後染着尺
27	有限会社 織道染塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ）、ニット（ウォーマー・腹巻、手袋・靴下）
28	株式会社 丸万中尾	後染反物（江戸小紋、色無地、変一越）、帯
29	株式会社 むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社 高島屋	後染反物（振袖、七五三着物）、長襦袢地
31	株式会社 さが美	後染反物（冬用・夏用黒紋付、色無地）
32	有限会社 まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社 小いけ	後染反物（色無地、黒紋付）
35	株式会社 伊と幸	後染反物（色無地）、白生地
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）
37	株式会社 和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社 栴屋高尾	帯（袋帯）
39	株式会社 つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社 越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社 小倉商店	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
42	染織家 柳 崇	先染反物、帯
43	染織家 児玉 京子	先染反物
44	草木染工房山村	先染反物、帯、ストール
45	手織り よおん	先染反物、帯
46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯
47	株式会社 龍工房	組紐
48	からん工房	先染反物（紋紬）、先染反物（緋）、帯
49	たわた工房	先染反物、帯
50	山音 株式会社	後染反物（変三越、駒紬）
51	やまと 株式会社	後染反物
52	株式会社 御園織物	先染反物、帯
53	桜井 株式会社	帯
54	有栖川織物 有限会社	帯
55	太田和 株式会社	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
56	株式会社 岩田	帯
57	有限会社 神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
58	浅山織物 株式会社	帯
59	株式会社 やまと	帯
60	田中種 株式会社	後染反物 (小紋)
61	株式会社 京扇	後染反物 (色無地)、胴裏絹 (パールトーン加工)
62	株式会社 なごみや	後染反物 (色無地、黒紋付)
63	丸池藤井 株式会社	後染反物 (色無地)、八掛
64	久保商事 株式会社	和装小物 (帯揚)、和装小物 (半衿)
65	加賀グンゼ 株式会社	胴裏地
66	千切屋 株式会社	後染反物 (訪問着、付下)、帯
67	荒川 株式会社	帯メ、帯揚
68	第一衣料 株式会社	後染反物 (色無地)
69	株式会社 紅輪	後染反物 (色無地)
70	装いの道 株式会社	胴裏絹 (トルマリン加工、灰汁浸け加工)
71	株式会社 高橋屋	胴裏絹 (灰汁浸け加工)
72	おお又 株式会社	胴裏絹 (灰汁浸け加工)
73	株式会社 天野屋呉服店	胴裏絹 (灰汁浸け加工)、白生地
74	株式会社 きもの朝見	胴裏絹 (パールトーン加工)
75	株式会社 とみひろ	胴裏絹 (酵素精練)
76	株式会社 細安	胴裏絹 (酵素精練)
77	京和きもの 株式会社	胴裏絹 (酵素精練)
78	株式会社 まるため	胴裏絹 (トルマリン加工、パーリー加工)
79	株式会社 小川屋	胴裏絹 (トルマリン加工、灰汁浸け加工)
80	株式会社 エムラ	胴裏絹 (酵素精練)
81	株式会社 荒井呉服店	胴裏絹 (酵素精練)
82	株式会社 牛島屋	胴裏絹 (酵素精練)
83	株式会社 谷呉服店	胴裏絹 (酵素精練)
84	株式会社 登美屋	胴裏絹 (パールトーン加工)
85	株式会社 川平屋	胴裏絹 (パールトーン加工)
86	丸専第一衣料 株式会社 (丸専きもの)	胴裏絹 (パールトーン加工)
87	株式会社 大丸松坂屋百貨店	胴裏絹 (錦秋×鐘和)
88	西陣織工業組合	洋装品 (マフラー)
89	株式会社 あきやま	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
90	藤井絞 株式会社	後染反物 (色無地)
91	株式会社 川まん	白生地
92	有限会社 結城屋	白生地
93	株式会社 ウメショウ	白生地
94	株式会社 大徳	後染反物 (色無地)
95	有限会社 カシワギ	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スカーフ、ストール、ネクタイ、シャツ、スーツ)
96	株式会社 北尾織物匠	袋帯、名古屋帯
97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締 (金銀系 5% 以上)、羽織紐 (男物、女物)
98	株式会社 菱健	後染反物 (色無地)
99	西野株式会社	帯締、帯締 (金銀系 5% 以上)
100	京商株式会社	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	株式会社 猪井	後染反物
102	株式会社 たちばな	後染反物
103	株式会社 丸富美	後染反物 (色無地)
104	株式会社 絹もの屋まつなが	後染反物 (色無地)
105	株式会社 山正山崎	後染反物 (色無地)
106	有限会社 こくぶん呉服店	後染反物 (色無地)
107	株式会社 染織近藤	後染反物 (色無地)
108	株式会社 宮川呉服店	後染反物 (色無地)
109	株式会社 和らいふ	後染反物 (色無地)
110	有限会社 きものいなもと	後染反物 (色無地)
111	株式会社 世きね	後染反物
112	株式会社 西陣まいづる	袋帯 (金銀系 5% 以上)
113	奥順 株式会社	先染反物 (結城紬)、帯 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	天蚕紬系ショール、天蚕ハイブリットショール
115	有限会社 金屋	後染反物 (色無地)

# 蚕糸関係博物館一覽

名 称	〒	住 所	電 話
<b>蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設</b>			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫”(ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 (財) 日本きもの文化協会	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
グンゼ博物館	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
<b>展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設</b>			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
<b>その他関連施設</b>			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名名家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

## 【行 政】

農林水産省  
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>  
<http://www.meti.go.jp/>

## 【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会  
(社) 日本絹業協会 (シ ョ ッ プ セ ン タ ー)  
(社) 日本生糸問屋協会  
(財) 日本真綿協会  
丹後織物工業組合  
西陣織工業組合  
T A F S (東京織物卸商業組合)  
K O M S (京都織物卸商業組合)  
京都和装産業振興財団  
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>  
<http://www.silk-center.or.jp>  
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>  
<http://www.mawata.or.jp/>  
<http://www.tanko.or.jp/>  
<http://www.nishijin.or.jp/>  
<http://www.tafs.or.jp/>  
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>  
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>  
<http://www.kougei.or.jp/>

## 【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室  
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>  
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科  
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>  
(国) 東京農工大学工学部生命工学科  
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>  
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程  
<http://www.bio.kit.ac.jp/>  
(国) 京都工芸繊維大学  
<http://www.kit.ac.jp/>  
(国) 信州大学繊維学部  
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>  
(国) 名古屋大学農学部  
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>  
(国) 北海道大学応用分子生物学講座  
[http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l\\_in\\_bunshi\\_seibuts.html](http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html)  
(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室  
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>  
(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻  
[http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new\\_lab/index.html](http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html)  
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース  
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>  
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科  
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>  
(独) 農業生物資源研究所  
<http://www.nias.affrc.go.jp>  
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所  
[http://www.silk.or.jp/silk\\_kagaku/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html)  
(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所  
[http://www.silk.or.jp/silk\\_gijyutu/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html)  
群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)  
[http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=50545](http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545)  
群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)  
[http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=59241](http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241)  
京都府織物・機械金属振興センター  
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>  
京都市産業技術研究所繊維技術センター  
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

## 【学 会】

日本シルク学会  
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>  
<http://www.soc.nii.ac.jp/~jsss2/>

## 【博物館】

(財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館  
群馬県立日本絹の里  
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>  
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>  
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

# 統計資料目次

## <国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	55
(2) 養蚕業の概要	56
(3) 養蚕農家数の推移	57
(4) 収繭量の推移	58
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量 (2008年)	59
(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)	60
(7) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	61
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	62
(9) 国内生糸価格実態	63
(10) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)	65
(11) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)	66
(12) 製糸工場の原料繭需給	67
(13) 製糸工場の操業状況	68
(14) 生糸在庫数量の内訳	69
(15) 蚕糸関係品目別輸入状況	70
(16) 生糸原産国別輸入状況	71
(17) 絹糸原産国別輸入状況	72
(18) 織物生産状況	73
(19) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産状況	74
(20) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	75
(21) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	76

## <海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	77
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	78
(3) 中国省別桑園面積、家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	79
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	80
(5) 中国のシルク類 (生糸、絹糸、絹織物) の輸出状況	81
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	82
(7) ブラジルの生糸、絹糸及び副蚕糸の内需、輸出別販売状況	83

## (1) 蚕糸絹業の概要

## Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次 (暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
平成 3 年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
4 年 1992	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
5 年 1993	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
6 年 1994	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
7 年 1995	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
8 年 1996	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
9 年 1997	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
10年 1998	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
11年 1999	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
12年 2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
13年 2001	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
14年 2002	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
15年 2003	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
16年 2004	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
17年 2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
18年 2006	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
19年 2007	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
20年 2008	1,021	382	374	1.6	6	80	38.1	14,043
21年 2009	900	327	363	1.2	6	60	28.4	11,455
前年対比 (%)	88.1	85.6	97.1	75.0	100.0	75.0	74.5	81.6

資料 ・ 養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。

ただし、平成13年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査であり、平成21年以降の養蚕業は全国農業協同組合連合会調査である。

・ 絹業は経済産業省調査によるものである。平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: The Regional Products and Industrial Crops Division, Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)  
The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (Sericultural industry, after 2009)

The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

## (2) 養蚕業の概要

## Outline of Sericultural Industry

項目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 收繭量	收繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 收繭量
	Farmhouse- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
年次 Year	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

## (3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)  
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、  
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

## (4) 収繭量の推移

## Cocoon Production

項目 Item 年次 Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量(年間) Cocoon production per farm harvested area of mulberry kg/10a
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、  
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～).

## (5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量 (2008年)

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item 県別 Each Prefecture	年計 Annual total			春繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養蚕 農家数	桑使用 面積	収繭量	養蚕 農家数	収繭量	養蚕 農家数	収繭量	養蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12	..	2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)  
Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば・ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料 : 農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

## (7) 生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況

## Raw Silk Supply and Demand Balance, Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,152	12,085	—	13,766	4,055	16,647	388	8,996	6,269
生糸年度 Silk Year									
2002	5,953	30,510	—	35,462	26,794	28,150	154	11,747	6,986
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2008 - 12	118	684	—	1,004	4,584	1,065	9	706	525
2009 - 1	101	1,004	—	1,115	4,574	1,281	5	1,090	400
2	109	516	—	989	4,210	801	6	424	581
3	111	921	—	880	4,362	1,213	19	730	591
4	111	529	—	797	4,205	1,459	26	834	574
5	91	1,379	—	1,517	4,158	1,092	33	727	526
6	101	800	—	1,218	3,841	1,363	54	900	514
7	94	927	—	957	3,905	1,656	49	793	504
8	88	921	—	847	4,060	1,646	37	683	469
9	94	1,174	—	1,117	4,211	1,525	31	603	448
10	93	1,083	—	1,440	3,947	1,664	26	737	657
11	86	1,060	—	1,365	3,728	1,525	65	733	476
12	73	1,771	—	1,517	4,055	1,423	37	715	529
2010 - 1	70	1,061	—	1,238	3,948	1,683	21	781	444
09.6~10.1	699	8,797	—	9,706	3,948	12,485	320	5,945	3,597
08.6~09.1	956	8,792	—	10,455	4,574	14,151	294	7,644	4,534

資料：(A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：(A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (8) 生糸の織度別生産数量の推移

## Raw Silk Production by Sizes

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	生 糸 Raw Silk					
		計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year							
2003		4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004		4,387	2	471	2,389	948	581
2005		2,508	8	337	834	799	527
2006		1,956	4	240	531	653	523
2007		1,747	5	259	495	514	474
2008		1,588	4	289	421	368	503
2009		1,152	1	243	392	251	262
生糸年度 Silk Year							
2002		5,953	8	316	3,273	1,649	706
2003		4,517	7	334	2,689	955	530
2004		3,868	4	482	1,845	918	622
2005		2,024	6	261	510	726	518
2006		1,794	4	269	480	562	475
2007		1,762	5	276	443	495	537
2008		1,378	1	291	447	280	360
2008 -	12	118	—	23	50	20	24
2009 -	1	101	1	23	34	28	16
	2	109	—	29	33	20	28
	3	111	—	31	42	14	24
	4	111	—	32	32	21	26
	5	91	0	17	25	23	25
	6	101	0	11	37	23	29
	7	94	0	19	37	23	14
	8	88	0	11	39	17	20
	9	94	0	14	36	22	22
	10	93	0	24	26	24	18
	11	86	0	12	25	25	24
	12	73	0	20	26	11	16
2010 -	1	70	0	25	15	10	19

資 料 : 農林水産省生産局調査。

備 考 : kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (9)国産生糸価格実態

### Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位:円/kg  
(Unit:Yen/kg)

織度 Size	21d	27d	31d	平均 Average
平成 17 年	3,870	3,173	3,107	3,383
平成 18 年	4,617	4,267	4,080	4,321
平成 19 年	3,961	3,625	3,573	3,720
平成 20 年	4,266	3,754	3,489	3,836
平成 21 年	4,171	3,598	3,136	3,635
平成 20 年 10 月	4,363	3,885	3,539	3,929
11 月	4,140	3,809	3,461	3,803
12 月	4,087	3,883	3,403	3,791
平成 21 年 1 月	4,209	3,652	3,374	3,745
2 月	4,020	3,695	3,380	3,698
3 月	4,160	3,655	3,139	3,836
4 月	4,400	3,665	3,167	3,744
5 月	4,318	3,402	3,243	3,654
6 月	3,917	3,499	3,068	3,494
7 月	4,106	3,562	2,914	3,527
8 月	4,186	3,841	2,912	3,646
9 月	4,150	3,627	2,986	3,588
10 月	4,149	3,450	3,195	3,598
11 月	4,461	3,547	3,145	3,718
12 月	3,980	3,581	3,055	3,539
平成 22 年 1 月	3,900	3,876	3,643	3,806
2 月	4,200	3,682	3,281	3,721
3 月	4,000	3,758	3,327	3,695

注 :国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料:(社)日本生糸問屋協会

Remarks: Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source:Japan Raw Silk Dealers Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸 A 類(21 デニール 5A)

Standard Raw Silk :21d 、5A

上段単位:元/kg、下段:円/kg

(Upper Sec Unit:Yuan/kg ,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
3 月中	3 月	260.61	260.57	260.66	260.61
		3,388	3,387	3,389	3,388
	4 月	261.21	261.13	261.21	261.13
		3,396	3,395	3,396	3,395
	5 月	260.66	260.49	260.79	260.66
		3,389	3,386	3,390	3,389
	6 月	257.06	256.89	257.23	257.10
		3,342	3,340	3,344	3,342
	7 月	253.20	253.16	253.46	253.41
		3,292	3,291	3,295	3,294
	8 月	253.07	252.90	253.29	253.11
		3,290	3,288	3,293	3,290
	9 月	251.27	251.10	251.44	251.27
		3,267	3,264	3,269	3,267
	11 月	248.01	248.01	248.23	248.23
		3,224	3,224	3,227	3,227
	1 月	247.71	247.71	247.93	247.93
		3,220	3,220	3,223	3,223

円換算レートは、1 元 = 13 円である。

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13Yen

Source: China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

## (10) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

## Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位: 千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
対前年比 2008/07 (%)	94	92	100	95	115	121	95	90	96	76	—	—	83	50	98	89

資 料 : 蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source : "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)  
After 2000, estimated by Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

## (11) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)

## Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2003	2004	2005	2006	2007	2008	前年比%	構成比%
								y/y	ratio
男子用外衣類 Men's upper garments		3.4	2.6	2.7	3.7	3.9	2.5	64.1	1.7
女子用外衣類 Women's upper garments		52.0	54.2	59.9	56.6	50.0	40.2	80.4	27.6
うちブラウス Blouse of the inside		3.5	3.5	3.7	3.5	3.0	3.4	113.3	2.3
男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.7	6.3	5.8	5.7	2.2	1.6	72.7	1.1
女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		14.7	14.7	16.1	15.1	15.0	16.3	108.7	11.2
ハンカチ Handkerchief		0.9	0.8	1.9	1.0	0.5	0.5	100.0	0.3
ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.5	3.5	3.4	2.7	3.0	2.9	96.7	2.0
ネクタイ類 Ties		26.1	26.4	25.2	21.4	21.6	20.8	96.3	14.3
メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting		18.0	19.3	19.9	18.5	21.2	19.8	93.4	13.6
その他の洋装類 Other western clothes		24.1	25.0	26.7	26.3	25.4	23.7	93.3	16.3
洋装類計 Western clothes subtotal		14.7	152.8	161.6	151.0	143.0	128.3	74.2	88.2
和装類計 Japanese clothes subtotal		12.8	13.5	17.4	18.4	15.5	14.7	94.8	10.1
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside		9.4	10.0	14.1	16.0	12.9	12.1	106.6	8.3
その他 Others		1.5	1.5	2.1	2.5	2.5	2.4	96.0	1.7
合計 Total		161.7	167.8	181.0	171.9	161.0	145.4	90.3	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により(社)日本生糸問屋協会で作成したものである。

注)：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"  
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note: Total may not added up due to round off.

## (12) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills (単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2003		1,598	1,612	761
2004		1,291	1,500	553
2005		866	830	589
2006		600	646	541
2007		548	581	505
2008		393	518	379
2009		308	385	313
生糸年度 Silk Year				
2002		1,921	1,972	525
2003		1,477	1,554	448
2004		1,056	1,280	224
2005		839	673	390
2006		562	599	349
2007		502	583	266
2008		406	452	224
Year	Month			
2008	— 12	△ 1	37	379
2009	— 1	4	34	354
	2	△ 2	36	320
	3	10	39	291
	4	△ 1	36	253
	5	1	31	224
	6	21	33	214
	7	88	31	271
	8	56	30	297
	9	22	32	287
	10	7	31	263
	11	102	29	337
	12	0	23	313
2010	— 1	14	23	304

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(13) 製糸工場の操業状況  
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2002	17	607	414	68	290	263
	2003	14	444	285	64	290	228
	2004	13	426	262	62	292	208
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	6	112	90	80	266	90
	2009	6	118	71	60	259	82
	2008 — 1	6	112	95	85	20	100
	2	6	112	94	84	22	98
	3	6	112	96	86	22	99
	4	6	112	100	89	23	101
	5	6	112	100	89	22	101
	6	6	112	95	85	23	100
	7	6	112	92	82	23	99
	8	6	112	91	81	21	92
	9	6	112	84	75	23	91
	10	6	112	87	78	24	92
	11	6	112	94	84	21	89
	12	6	112	90	80	22	90
	2009 — 1	6	112	91	81	20	85
	2	6	118	89	75	21	88
	3	6	118	90	76	22	89
	4	6	118	86	73	22	85
	5	6	118	77	65	20	80
	6	6	118	77	65	23	83
	7	6	118	72	61	23	83
	8	6	118	75	64	20	82
	9	6	118	77	65	22	82
	10	6	118	77	65	24	82
	11	6	118	74	63	21	81
	12	6	118	71	60	21	82
	2010 — 1	6	118	79	67	20	81

資 料：農林水産省生産局調査。

- 備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。  
2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。  
3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

- Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.  
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.  
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

## (14) 生糸在庫数量の内訳

## Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受入 数量 Accepts	引渡 数量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
年月 Year & Month									
暦年 Calendar Year									
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528	—	—	—
生糸年度 Silk Year									
2002	26,794	6,771	1,837	445	4,207	282	30,510	30,617	20,023
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	501			
2008 — 12	4,584	4,584	310	15	3,536	723			
2009 — 1	4,574	4,574	322	15	3,461	776			
2	4,210	4,210	329	10	3,261	610			
3	4,362	4,362	333	10	3,366	653			
4	4,205	4,205	361	15	3,248	581			
5	4,158	4,158	376	15	3,266	501			
6	3,841	3,841	382	15	3,056	388			
7	3,898	3,898	381	15	3,062	440			
8	4,060	4,060	362	15	3,156	527			
9	4,211	4,211	345	15	3,264	587			
10	3,947	3,947	339	15	3,055	538			
11	3,728	3,728	359	10	2,926	433			
12	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010 — 1	3,948	3,948	355	10	2,995	588			

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion reelers.

(15) 蚕糸関係品目別輸入状況(平成17年～22年1月)  
Breakdown of Silk-Related Products Imports (2005～Jan 2010)

	単位 Unit	平成22年(2010)		平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	平成17年 (2005)	21年/20年 2009/08 (%)
		(1月) Jan	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	1,061	1,061	12,085	15,242	12,858	21,148	22,915	79.3
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	1,683	1,683	16,647	22,636	19,439	31,524	32,699	73.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	—	—	149	317	333	430	520	47.0
繭 Cocoon	kg	7,000	7,000	9,800	4,000	13,750	18,565	16,300	33.7
真綿 Floss Silk	kg	—	—	—	29,071	28,660	34,176	45,186	—
ペニ Peigne	kg	—	—	35,331	2,770	6,336	19,760	15,068	1275.5
くず繭 Waste Cocoon	kg	6,120	6,120	33,450	23,770	17,184	1,020	3,650	140.7
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	202,220	242,082	234,894	216,422	—
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	16,216	16,216	103,122	193,125	238,507	255,951	319,072	53.4
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	22,336	22,336	171,903	450,956	532,769	545,801	878,398	38.1
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other	kg	44,063	44,063	335,710	526,662	608,270	756,065	847,200	63.7
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	15,063	15,063	97,554	143,585	117,265	208,913	202,901	67.9
絹織物 Silk Fabrics	m <sup>2</sup>	781,034	781,034	8,996,010	11,540,335	11,355,333	12,989,059	15,999,327	78.0

資料：財務省関税局

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(16) 生糸の原産国別輸入数量  
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
		Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦年 Calendar Year							
2007		12,858 (149)	8,804 (124)	3,848 (25)	-	206 (-)	-
2008		15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	-	117 (-)	-
2009		12,085 (72)	8,169 (51)	3,855 (21)	11 (-)	50 (-)	-
生糸年度 Silk Year							
2006		13,460 (166)	8,385 (119)	4,454 (42)	5 (5)	174 (-)	-
2007		16,185 (93)	11,410 (69)	4,607 (24)	-	168 (-)	-
2008		12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	-
2008	-						
	1	1,041 (8)	824	213 (8)	-	4	-
	2	849 (5)	580 (5)	267	-	2	-
	3	1,484 (14)	1,036 (10)	448 (4)	-	-	-
	4	505	314	191	-	-	-
	5	3,574 (29)	2,542 (20)	1,026 (9)	-	6	-
	6	1,362 (5)	1,128	233 (5)	-	1	-
	7	1,517 (21)	1,090 (21)	407	-	20	-
	8	1,129 (29)	726 (15)	385 (14)	-	18	-
	9	1,135 (21)	906 (21)	212	-	17	-
	10	1,280	913	347	-	20	-
	11	682 (5)	512	151 (5)	-	20	-
	12	684 (10)	397 (10)	272	-	14	-
2009	-						
	1	1,004	693	309	-	2	-
	2	516	195	321	-	-	-
	3	921 (7)	820 (7)	97	-	5	-
	4	529 (10)	333 (10)	181	11	5	-
	5	1,379 (5)	859 (5)	520	-	-	-
	6	800	636	162	-	2	-
	7	927	842	79	-	6	-
	8	921	819	96	-	7	-
	9	1,174	890	284	-	-	-
	10	1,083	776	299	-	7	-
	11	1,060	500	553	-	7	-
	12	1,771	807	954	-	10	-
2010	-						
	1	1,061	857	205	-	-	-

資料：財務省関税局調査

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。  
2. ( ) 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.  
2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(17) 絹糸の原産国別輸入数量  
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others	
暦 年 Calendar Year										
2006		31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3	
2007		19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7	
2008		22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12	
2009		16,647	—	9,655	5,096	10	—	1,742	144	
生糸年度 Silk Year										
2005		36,113	143	21,337	8,983	18	—	5,621	8	
2006		21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3	
2007		22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10	
2008		18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64	
2008	—	1	2,021	—	1,236	447	0	—	338	0
		2	1,769	—	853	746	0	—	170	0
		3	1,689	7	871	418	1.0	—	390	2
		4	2,220	—	1,187	660	5	—	366	2
		5	2,067	—	1,146	615	—	—	304	2
		6	2,087	23	1,302	600	—	—	161	1
		7	2,459	—	1,502	555	2	—	400	—
		8	2,311	—	1,275	753	1	—	282	—
		9	1,979	—	1,103	644	1	—	226	5
		10	1,451	—	781	462	—	—	208	—
		11	1,518	—	645	687	—	—	186	1
		12	1,065	—	609	279	2	—	174	1
2009	—	1	1,281	—	842	278	—	—	159	2
		2	801	—	253	463	—	—	65	19
		3	1,213	—	734	300	3	—	176	—
		4	1,459	—	959	317	—	—	148	35
		5	1,092	—	672	362	2	—	57	—
		6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
		7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—
		8	1,646	—	842	664	—	—	140	—
		9	1,525	—	911	447	4	—	106	58
		10	1,664	—	808	563	0	—	293	—
		11	1,525	—	800	604	—	—	120	0
		12	1,423	—	1,021	170	—	—	202	30
2010	—	1	1,683	—	1,086	478	—	—	118	1

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(18) 織物生産数量  
Fabric Production

(単位：1,000㎡)  
(Unit : 1,000sq. meters.)

年月 Year & Month	項目 Item	計 Total	綿織物 Cotton Fabrics	絹織物 Silk Fabrics	絹紡織物 Spun Silk Fabrics	合成繊維織物 Synthetic Fiber Fabrics	人絹織物 Rayon Filament and Acetate Fabrics	ビスコース スフ織物 Viscose staple fabrics	毛織物 Wool Fabrics	麻織物 Bast Fiber Fabrics
暦年 Calendar Year										
2003		2,031,053	506,696	23,940	728	1,217,413	71,711	129,178	78,071	3,318
2004		1,974,731	479,246	21,970	753	1,209,640	67,540	116,294	75,662	3,326
2005		1,837,703	425,460	19,816	579	1,146,845	66,231	101,235	72,531	5,006
2006		1,736,816	399,697	17,122	1,384	1,082,896	64,509	95,783	70,817	4,608
2007		1,699,291	367,733	14,262	1,204	1,096,107	63,714	85,308	67,590	3,372
2008		1,553,767	326,954	12,791	1,252	1,008,457	60,582	79,928	60,712	3,091
2009		1,068,976	220,408	9,295	638	701,759	31,364	65,843	37,969	1,702
2007 —	6	143,181	31,427	1,275	98	91,959	5,338	6,963	5,922	200
	7	145,873	31,229	1,200	97	94,825	5,438	6,909	5,958	217
	8	135,738	28,823	1,036	93	88,065	5,167	6,445	5,949	161
	9	138,732	28,451	1,209	125	91,069	5,191	6,904	5,591	192
	10	145,544	29,580	1,181	111	96,040	5,567	6,863	5,974	228
	11	143,797	29,178	1,217	98	94,956	5,419	6,924	5,748	257
	12	141,698	29,412	1,196	101	93,350	5,368	6,652	5,184	436
2008 —	1	133,067	26,568	994	107	89,112	5,070	6,129	4,759	330
	2	139,973	28,262	1,198	102	92,685	5,468	7,220	4,813	226
	3	141,922	28,510	1,178	103	94,709	5,520	6,804	4,890	208
	4	139,796	28,146	1,097	103	92,890	5,553	6,518	5,135	354
	5	130,923	27,563	1,110	101	84,940	5,252	6,587	5,128	253
	6	132,067	27,370	1,159	104	85,408	5,300	6,916	5,602	207
	7	127,748	27,577	1,085	99	81,040	5,341	6,766	5,613	227
	8	118,610	25,975	931	97	75,181	4,668	6,393	5,186	179
	9	124,690	26,194	1,031	125	81,707	4,696	6,507	5,249	182
	10	125,446	27,066	1,010	113	80,493	4,709	6,675	5,149	232
	11	121,721	26,754	1,025	102	77,375	4,609	6,749	4,843	263
	12	117,803	26,970	982	96	73,917	4,397	6,663	4,347	430
2009 —	1	104,401	23,096	729	87	67,408	3,916	5,247	3,667	251
	2	99,387	21,064	879	85	63,883	3,647	6,116	3,550	164
	3	93,091	19,946	847	85	60,655	2,653	5,577	3,187	141
	4	87,492	18,426	792	42	57,489	2,015	5,346	3,154	228
	5	83,008	17,832	747	42	54,352	1,284	5,171	3,015	164
	6	84,518	16,379	806	44	56,652	1,995	5,546	2,970	124
	7	85,647	16,247	769	42	57,433	2,435	5,397	3,219	107
	8	81,133	16,297	685	38	52,996	2,367	5,494	3,187	70
	9	85,055	16,879	756	40	56,421	2,215	5,523	3,146	75
	10	88,751	17,787	752	42	58,691	2,911	5,384	3,108	77
	11	88,110	17,830	782	48	58,125	2,766	5,498	2,973	88
	12	88,383	18,628	752	41	57,653	2,761	5,544	2,794	214

資料：経済産業省調査。

備考：交織を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Mixed fabrics included.

## (19) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics by Silk and Rayon Weavers

(単位：1,000㎡)

(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2003	23,822	8,371	3,800	2,464	2,107	11,399	7,653	3,747	4,053
2004	21,859	7,540	3,510	2,190	1,842	10,809	7,346	3,463	3,509
2005	19,698	6,664	2,965	1,903	1,800	10,181	6,900	3,280	2,852
2006	18,153	6,104	2,734	1,728	1,646	9,194	5,882	3,312	2,855
2007	15,182	5,214	2,276	1,547	1,392	7,575	4,578	2,997	2,392
2008	13,661	4,781	2,061	1,419	1,301	6,800	4,170	2,631	2,080
2009	9,657	3,196	1,254	1,045	897	5,166	3,348	1,818	1,295
2007 —									
6	1,354	461	194	139	129	683	428	255	210
7	1,276	445	186	138	121	647	391	256	184
8	1,108	392	169	124	99	554	315	239	162
9	1,286	427	187	134	106	661	423	238	197
10	1,262	423	189	122	111	629	377	252	210
11	1,297	451	191	132	127	645	399	245	201
12	1,274	435	187	136	112	639	400	238	200
2008 —									
1	1,070	394	180	114	100	501	270	231	175
2	1,269	422	183	129	110	644	407	237	203
3	1,241	419	184	125	110	634	402	232	188
4	1,171	419	189	122	108	585	360	225	167
5	1,176	421	187	121	113	579	353	226	176
6	1,240	429	190	125	114	630	403	227	181
7	1,157	400	177	113	110	562	343	219	195
8	998	337	152	95	89	507	301	205	155
9	1,100	364	156	101	107	555	342	213	182
10	1,084	385	149	123	114	538	322	216	161
11	1,094	403	158	128	117	542	343	199	149
12	1,049	391	155	124	112	524	325	199	135
2009 —									
1	790	283	109	92	83	395	209	186	111
2	939	307	104	104	99	503	317	186	128
3	911	298	108	90	99	491	295	197	122
4	814	281	111	93	77	434	290	144	99
5	768	260	106	87	66	408	265	143	100
6	829	272	110	89	72	445	298	146	113
7	790	259	104	85	69	418	273	145	113
8	699	230	98	80	51	382	256	126	88
9	722	246	98	85	63	419	288	132	107
10	771	248	104	80	65	411	271	140	112
11	805	259	99	82	78	445	303	141	101
12	819	253	103	78	75	415	283	132	101

資 料：経済産業省調査。

備 考：単位以下四捨五入。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

## (20) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics in Tango, Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹人絹織物製造業者の 絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦年 Calendar Year								
2003	23,822	89.2	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
2004	21,859	91.8	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,698	90.1	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,153	92.2	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,182	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	13,661	90.0	656,919	92.2	88,401	90.9	867,490	88.7
2009	9,657	71	503,365	76.6	73,681	83.3	746,538	86.1
2007 —								
10	1,262	87.5	58,668	84.8	9,400	100.7	60,982	161.7
11	1,297	94.5	63,195	97.0	8,207	93.1	78,005	154.9
12	1,274	93.0	62,144	89.7	8,097	89.9	67,462	144.6
2008 —								
1	1,070	92.4	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,269	96.7	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,241	93.4	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,171	88.9	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,176	96.0	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,240	91.6	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,157	90.7	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	998	90.1	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,100	85.5	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,084	85.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,094	84.3	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,049	82.3	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 —								
1	790	73.8	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	939	74.0	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	911	73.4	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	814	69.5	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	768	65.3	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	829	66.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	790	68.3	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	699	70.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	722	65.6	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	711	65.6	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	805	73.6	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12	819	78.1	43,241	88.1	6,061	102.9	61,841	111.2
1			31,911	114.2	5,989	110.3		
2			46,194	95.2	6,366	106.2		
3			43,859	99.8	7,813	117.2		

資料：「絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量」は経済産業省調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

## (21)全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)
年月 Year & Month												
暦年Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2008 - 1	309,826	3.6	13,981	▲ 5.6	504	35.0	6,212	▲ 3.9	2,768	▲ 7.1	1,079	▲ 1.9
2	275,565	0.0	10,215	▲ 2.7	308	▲ 41.6	4,351	▲ 6.4	1,864	▲ 1.9	894	11.2
3	312,565	▲ 1.6	14,035	▲ 0.8	128	▲ 75.0	6,445	▲ 2.6	2,482	5.3	957	8.4
4	310,695	▲ 2.7	12,778	▲ 4.1	86	▲ 52.5	4,965	▲ 7.7	2,509	▲ 3.9	984	▲ 2.5
5	288,128	▲ 3.2	12,762	▲ 4.9	211	31.6	4,635	1.3	2,840	▲ 11.7	1,123	▲ 7.7
6	281,951	▲ 1.8	11,894	▲ 13.8	123	▲ 70.1	4,206	▲ 10.0	2,934	▲ 16.7	1,081	▲ 19.8
7	298,366	▲ 0.5	13,702	3.2	341	▲ 13.1	4,634	▲ 1.5	3,637	9.1	1,346	9.7
8	291,154	▲ 4.0	9,945	▲ 0.5	769	48.6	3,124	▲ 1.5	2,259	▲ 0.7	1,060	4.1
9	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3
10	287,789	1.6	12,287	▲ 2.3	75	▲ 80.8	4,685	0.1	2,705	1.0	1,220	9.3
11	284,740	2.2	13,698	▲ 4.3	236	50.0	5,558	▲ 7.8	2,512	▲ 4.3	1,392	▲ 6.0
12	337,887	2.1	14,546	8.7	344	▲ 0.3	5,750	9.2	2,678	11.0	1,656	7.7
1	291,918	1.7	12,997	▲ 3.7	102	▲ 69.3	5,969	▲ 3.4	2,383	▲ 6.2	1,045	2.4

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source: Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks: Clothing &amp; footwear includes Japanese clothing, clothing, shirts &amp; sweaters and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2002年	2003年	2004年
日本	Japan	880 トン	780 トン	683 トン
中国	China	545,497	480,774	547,091
インド	India	128,000	117,000	120,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	10,238	9,966	8,005
タイ	Thailand	3,473	10,500	10,650
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,500	3,200	3,200
インドネシア	Indonesia	691		
トルコ	Turkey	100	169	169
ブルガリア	Bulgaria	50	0.3	20
ギリシャ	Greece	60	60	70
フィリピン	Philippines	28	23	22
主要国の計	Total	733,517	663,472	730,910

区 分		2005年	2006年	2007年
日本	Japan	626 トン	505 トン	433 トン
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,000	135,000	150,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
インドネシア	Indonesia			
トルコ	Turkey	170	350	130
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
主要国の計	Total	809,722	937,006	983,059

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド織維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

## (2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2002年		2003年		2004年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	391	6,500	287	4,800	263	4,400
中国	China	73,585	1,226,400	83,763	1,396,100	80,231	1,337,200
インド	India	14,617	243,600	13,970	232,800	14,620	243,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,607	26,800	1,563	26,100	1,512	25,200
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,500	25,000	1,420	23,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	630	10,500	500	8,300	500	8,300
インドネシア	Indonesia	91	1,500				
トルコ	Turkey	17	300	28	500	28	500
ブルガリア	Bulgaria	7	100	0	0	3	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4.5	100
フィリピン	Philippines	3	100	3	100	3	100
主要国の計	Total	95,802	1,596,700	104,968	1,749,600	101,935	1,699,100

区 分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	18,320	305,300
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
インドネシア	Indonesia						
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	0	0
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1	0
主要国の計	Total	109,848	1,830,800	115,926	1,932,300	132,457	2,207,500

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

## (3) 中国省別桑園面積・家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数

## Mulberry Farm Area, Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	桑園面積 Mulberry Farm Area (10,000ha、%)			家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2005	2006	対前年比 2006/05	2006	2007	対前年比 2007/06	2006	2007	対前年比 2007/06
山 西	Shanxi	0.82	1.10	135	5,602	5,800	104	175	130	74
上 海	Shanghai	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	9.08	8.98	99	117,800	104,119	88	20,186	22,000	109
浙 江	Zhejiang	7.04	7.40	105	85,122	83,900	99	19,051	18,500	97
安 徽	Anhui	4.67	5.47	117	37,596	38,100	101	4,038	5,200	129
江 西	Jiangxi	1.63	1.90	116	12,110	12,400	102	1,676	2,500	149
山 東	Shandong	5.00	5.00	100	39,700	40,500	102	6,253	7,200	115
河 南	Henan	2.20	2.73	124	13,390	13,700	102	318	110	35
湖 北	Hubei	2.53	2.79	110	15,706	15,800	101	536	470	88
湖 南	Hunan	0.61	0.69	112	4,100	4,200	102	50	60	120
広 東	Guangdong	2.53	5.33	211	68,750	81,127	118	1,138	1,400	123
広 西	Guangxi	9.40	12.00	128	185,000	205,163	111	8,020	11,000	137
重 慶	Chongqing	7.93	7.93	100	23,828	24,800	104	6,490	7,800	120
四 川	Sichuan	10.67	10.67	100	77,800	83,700	108	21,914	28,000	128
貴 州	Guizhou	0.58	0.63	108	1,254	2,532	202	-	-	-
雲 南	Yunnan	5.27	6.25	119	31,477	36,600	116	1,335	1,640	123
陝 西	Shaanxi	4.80	5.00	104	18,498	24,600	133	1,657	2,300	139
甘 肅	Gansu	0.62	0.65	104	613	500	82	-	-	-
寧 夏	Ningxia	0.28	0.33	120	475	500	105	59	50	85
新 疆	Xinjiang	0.50	0.73	145	895	200	22	-	-	-
内 蒙 古	Inner Mong	-	-	-	-	-	-	208	60	28.80
合 計	Total	76.20	85.57	112	739,715	779,261	105	93,105	108,420	116

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	対比 2008/06
702	682	97(%)

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

## (4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1996年～2007年)

(単位: 万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	前年比 07/06(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	
山 西	Shanxi	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai									0.0	0.0			
江 蘇	Jiangsu	9.2	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	88.1
浙 江	Zhejiang	8.4	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	98.9
安 徽	Anhui	2.4	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	100.0
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.8	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	100.0
山 東	Shandong	4.1	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	100.0
河 南	Henan	1.3	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	107.7
湖 北	Hubei	1.2	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	100.0
湖 南	Hunan	0.2	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.2	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	117.4
広 西	Guangxi	1.7	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	110.8
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing			2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	104.2
四 川	Sichuan	12.2	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	107.7
貴 州	Guizhou	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	119.4
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	138.9
甘 肅	Gansu									0.1	0.1	0.1	0.1	100.0
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia									0.0	0.0	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
合 計	Total	47.1	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	105.4

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5)中国のシルク類の輸出状況  
Silk Exports of China  
(2008年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 インド	India	8,376,916	95.61	198.655	95.74
2 ルーマニア	Romania	1,122,194	229.25	30.163	247.36
3 イタリア	Italy	829,113	84.23	23.391	89.00
4 日本	Japan	662,460	85.26	19.222	89.26
5 ベトナム	Vietnam	628,784	130.28	16.504	137.62
6 韓国	South Korea	561,080	62.02	14.868	61.67
7 パキスタン	Pakistan	246,913	93.97	5.794	92.99
8 バングラデッシュ	Bangladesh	193,213	83.00	4.502	82.55
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	154,721	67.92	3.735	67.63
10 タイ	Thailand	77,128	99.45	2.000	96.87
11 その他	Others	578,870	104.72	14.901	104.65
合計	Total	13,431,394	97.66	333.735	99.00

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 イタリア	Italy	916,759	132.94	28.804	137.47
2 日本	Japan	627,903	140.56	20.108	143.90
3 インド	India	542,905	113.77	14.939	117.53
4 パキスタン	Pakistan	416,968	112.40	11.742	114.35
5 ドイツ	Germany	395,690	79.76	13.803	80.10
6 タイ	Thailand	211,670	174.92	6.409	180.18
7 トルコ	Turkey	63,941	148.93	2.429	140.48
8 インドネシア	Indonesia	48,415	137.44	1.315	145.49
9 韓国	South Korea	43,601	37.36	1.485	39.64
10 香港	Hong Kong	30,381	828.27	0.960	791.71
11 その他	Others	107,761	62.71	3.921	96.88
合計	Total	3,405,994	114.36	105.915	116.44

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 インド	India	58,533,788	79.44	139.041	79.72
2 イタリア	Italy	44,916,778	138.52	144.278	131.10
3 香港	Hong Kong	27,767,378	94.40	122.817	97.18
4 パキスタン	Pakistan	20,415,584	99.70	41.814	99.23
5 韓国	South Korea	20,317,354	97.82	79.553	102.23
6 日本	Japan	13,594,742	99.07	37.482	103.06
7 アメリカ	United States	8,349,317	88.03	48.281	86.79
8 シンガポール	Singapore	7,180,679	93.89	19.236	79.86
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	6,901,548	124.54	22.457	70.65
10 マレーシア	Malaysia	6,756,442	186.33	23.028	200.41
11 その他	Others	34,603,876	121.03	125.775	120.81
合計	Total	249,337,487	101.22	803.762	104.13

資料: 中国税関  
Source: Customs General Administration in China

中国のシルク類の輸出状況  
Silk Exports of China  
(2009年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	6,569,701	78.43	169.347	85.25
2 韓国	South Korea	535,549	95.45	15.298	102.90
3 日本	Japan	452,022	68.23	13.085	68.07
4 ベトナム	Vietnam	375,651	59.74	10.753	65.15
5 イタリア	Italy	256,086	30.89	7.581	32.41
6 ルーマニア	Romania	255,816	22.80	7.174	23.79
7 パキスタン	Pakistan	177,598	71.93	4.587	79.16
8 バングラデッシュ	Bangladesh	151,813	78.57	3.798	84.36
9 シンガポール	Singapore	129,035	189.66	3.251	208.51
10 ミャンマー	Myanmar	65,661	118.00	1.594	122.07
11 その他	Others	258,273	37.59	7.053	39.69
合計	Total	9,227,205	68.70	243.521	72.97

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	2,477,192	456.28	63.805	427.09
2 日本	Japan	596,647	95.02	18.318	91.10
3 パキスタン	Pakistan	464,458	111.39	13.203	112.44
4 イタリア	Italy	412,419	44.99	12.492	43.37
5 ドイツ	Germany	296,058	74.82	9.325	67.56
6 韓国	South Korea	202,018	463.33	5.923	398.83
7 タイ	Thailand	88,127	41.63	2.647	41.30
8 インドネシア	Indonesia	78,856	162.88	2.102	159.86
9 シンガポール	Singapore	69,474	287.05	1.617	256.15
10 ベトナム	Vietnam	56,380	1124.45	1.416	588.72
11 その他	Others	184,838	106.93	5.381	126.61
合計	Total	4,926,467	144.64	136.229	128.62

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	65,737,464	112.31	160.690	115.57
2 パキスタン	Pakistan	45,144,585	221.13	88.970	212.78
3 イタリア	Italy	36,326,731	80.82	105.440	73.08
4 香港	Hong Kong	17,155,562	61.78	75.032	61.09
5 韓国	South Korea	17,005,031	83.70	63.282	79.55
6 日本	Japan	11,401,420	83.87	29.884	79.73
7 シンガポール	Singapore	10,373,370	144.46	36.621	190.37
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,144,231	132.50	28.526	127.03
9 マレーシア	Malaysia	9,118,447	134.96	30.400	132.01
10 アメリカ	United States	5,460,308	65.40	30.024	62.19
11 その他	Others	35,259,585	101.90	116.842	92.90
合計	Total	262,126,734	105.13	765.711	95.27

資料: 中国税関  
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移  
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)	暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1985/86	11,353	1985	1,553,776	25,896
1986/87	10,575	1986	1,663,976	27,733
1987/88	11,830	1987	1,658,375	27,640
1988/89	11,470	1988	1,748,996	29,150
1989/90	15,829	1989	1,696,622	28,277
1990/91	17,221	1990	1,693,206	28,220
1991/92	17,586	1991	2,077,155	34,619
1992/93	19,134	1992	2,296,053	38,268
1993/94	18,260	1993	2,325,809	38,763
1994/95	16,260	1994	2,535,440	42,257
1995/96	15,368 (95%)	1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996/97	14,811 (96%)	1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997/98	14,594 (99%)	1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998/99	10,305 (71%)	1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999/2000	8,473 (82%)	1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000/01	9,916 (117%)	2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001/02	10,238 (103%)	2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002/03	9,966 (97%)	2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003/04	8,005 (80%)	2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004/05	7,146 (89%)	2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005/06	8,051 (113%)	2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006/07	8,617 (107%)	2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007/08	6,266 (73%)	2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008/09	4,835 (77%)	2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009/10 [見込み] [Estimate]	4,586 (95%)	2009 [見込み] [Estimate]	850,000 (72%)	14,167

資料:ブラジル製糸協会

注:( )内は対前年比

[ ]内の見込みは2009年10月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of October 2009.

(7) ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況  
 Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn and Secondary  
 Silk Yarn in Brazil

単位：ト、( )内は60kg俵  
 Unit: ton, Figures in Parenthesis: Bales of 60kg

区分		2003年 実績	2004年 実績	2005年 実績	2006年 実績	2007年 実績	2008年 実績	2009年予測 forecast	09/08 (%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,500)	106 (1,767)	118 (1,967)	72 (1,200)	84 (1,400)	70 (1,167)	56 (933)	80.0
	輸出 Export	1,057 (17,617)	837 (13,950)	676 (11,267)	782 (13,033)	876 (14,600)	721 (12,017)	624 (10,400)	86.5
	計 Total	1,147 (19,117)	943 (15,717)	794 (13,233)	854 (14,233)	960 (16,000)	791 (13,183)	680 (11,333)	86.0
絹撚糸 Twisted Silk Yarn	内需 Domestic Demand	77 (1,283)	71 (1,183)	92 (1,533)	74 (1,233)	78 (1,300)	89 (1,483)	79 (1,317)	88.8
	輸出 Export	431 (7,183)	516 (8,600)	454 (7,567)	392 (6,533)	274 (4,567)	274 (4,567)	145 (2,417)	52.9
	計 Total	508 (8,467)	587 (9,783)	546 (9,100)	466 (7,767)	352 (5,867)	363 (6,050)	224 (3,733)	61.7
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,783)	177 (2,950)	210 (3,500)	146 (2,433)	162 (2,700)	159 (2,650)	135 (2,250)	84.9
	輸出 Export	1,488 (24,800)	1,353 (22,550)	1,130 (18,833)	1,174 (19,567)	1,150 (19,167)	995 (16,583)	769 (12,817)	77.3
	計① Total①	1,655 (27,583)	1,530 (25,500)	1,340 (22,333)	1,320 (22,000)	1,312 (21,867)	1,154 (19,233)	904 (15,067)	78.3
副蚕糸 Secondary Silk Yarn	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	76	49	64.5
	輸出 Export	217	386	295	241	256	182	147	80.8
	計② Total②	481	509	338	325	328	258	196	76.0
	②/①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	22.4	21.7	

資料：ブラジル製糸協会

注：俵換算は、合計で一致しない場合がある。

Source: ABRASSEDA

Note: Bale value may not add up.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

**<http://www.silk-teikei.jp/index.html>**

シルクレポート 2010年5月号 NO.12 平成22年5月1日発行

編集 / 発行  
(問い合わせ先)

**(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター**  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館5階  
TEL : 03-3214-3500  
FAX : 03-3214-3511  
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず